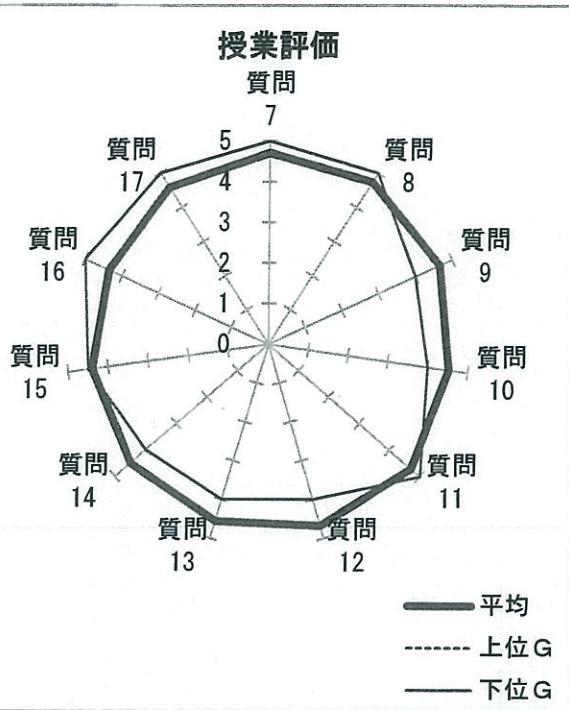


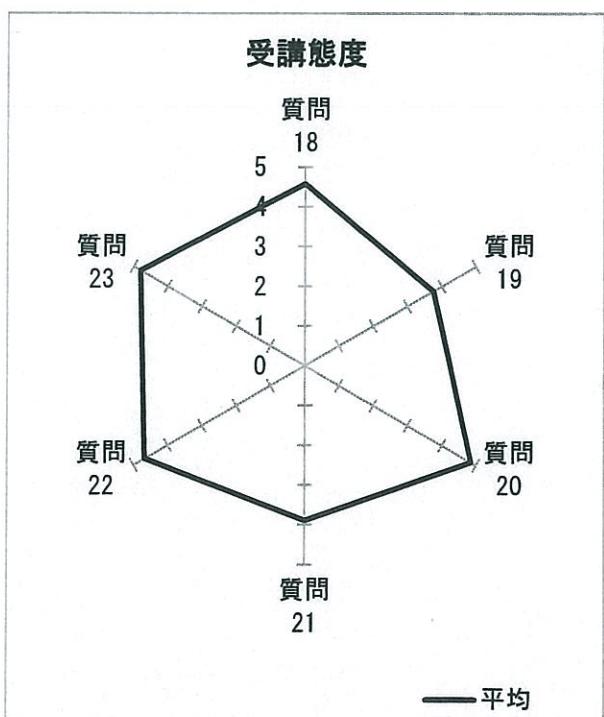
科目コード 908 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 幸 史子 看護学概論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	5.0
質問 8	4.7	4.7	5.0
質問 9	4.7	4.7	4.0
質問 10	4.5	4.5	4.0
質問 11	4.7	4.7	5.0
質問 12	4.7	4.7	4.0
質問 13	4.6	4.6	4.0
質問 14	4.5	4.5	4.0
質問 15	4.4	4.4	4.5
質問 16	4.4	4.3	5.0
質問 17	4.6	4.6	5.0
平均	4.6	4.6	4.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	3.8
質問20	4.8
質問21	3.9
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	幸 史子	看護学概論	72名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は、上位グループ平均4.6、下位グループ平均4.5であり、全員が同程度の授業評価を行っていた。質問7から質問17についてのバランスも良かった。今回、パワーポイントではなく資料配布と板書で講義を行ったが、学生の集中力も良く、授業アンケートからも効果的であったと考える。

受講態度については、質問19が3.8で、他の項目より目だって低かった。授業開始時には、講義ガイダンスを行い、理解を得ていると考えていたが、入学直後であることから、十分な認識ができていなかつたのではないかと考える。頻回に講義目的や全体の中での位置づけ等について説明する必要があった。

II. 2019年度に向けての取り組み

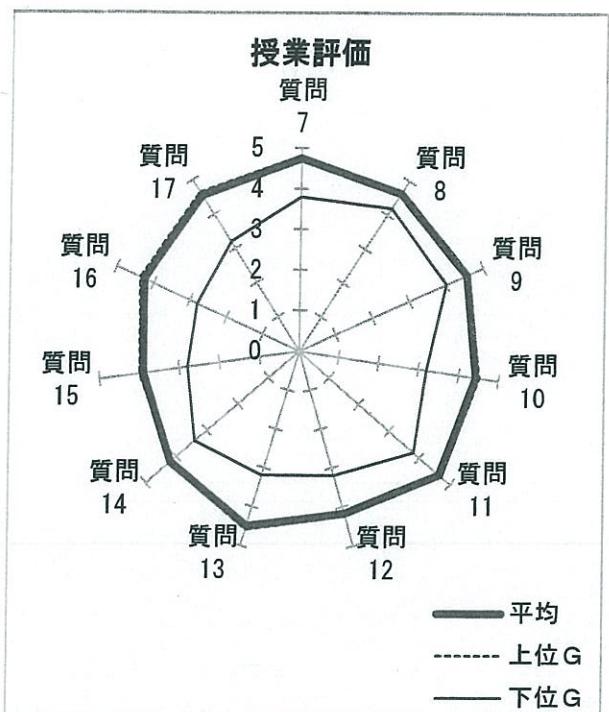
2019年度担当予定科目名：看護学概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度も今年度と同様の方法で授業を展開していく予定である。但し、講義終了時には、毎回講義内容のまとめと授業の到達、次回の授業の目標を説明することとする。

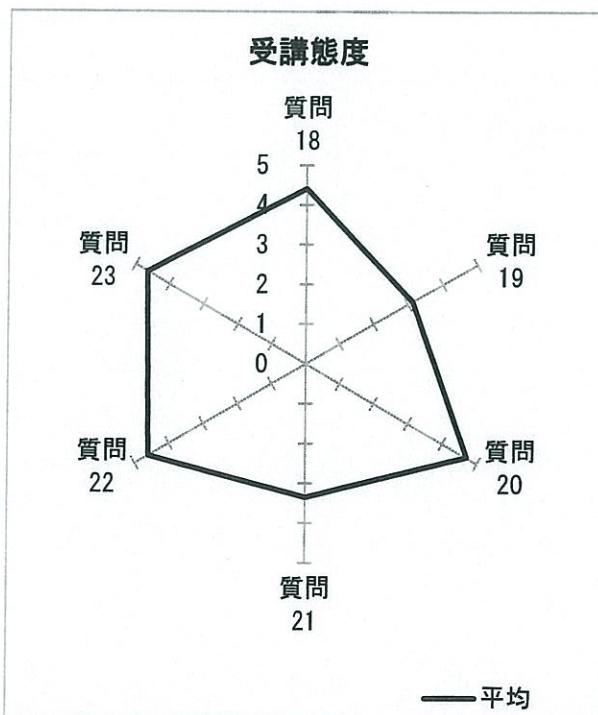
科目コード 909 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 幸 史子 基礎看護技術 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	3.8
質問 8	4.6	4.7	4.2
質問 9	4.6	4.6	4.0
質問10	4.4	4.5	3.2
質問11	4.6	4.7	3.8
質問12	4.2	4.2	3.2
質問13	4.5	4.6	3.2
質問14	4.2	4.3	3.4
質問15	3.9	4.0	2.8
質問16	4.3	4.4	2.8
質問17	4.6	4.7	3.2
平均	4.4	4.5	3.4

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8：教員の授業時間遵守
- 質問 9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	3.1
質問20	4.7
質問21	3.3
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.1

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	幸 史子	基礎看護技術 I	73名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均は、4.4であった。上位グループは4.5、下位グループは3.4と1点以上の差が出ていた。全体平均の中で特に低かったのは、授業を理解できたかであった。本科目は、5名の教員のオムニバスで展開している、また、演習はグループ活動としており、グループで予習して演習に臨むこととしていたが、当初学生が中々慣れず、グループ間で格差が出たのではないかと考える。格差は正については、補習や質問の機会の確保など行っていたものの、充分な理解には至らなかったのではないかと考える。このことは、授業態度の質問19,21にも表れており、講義や演習の開始時点での学生の足並みを揃えることが必要であると考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

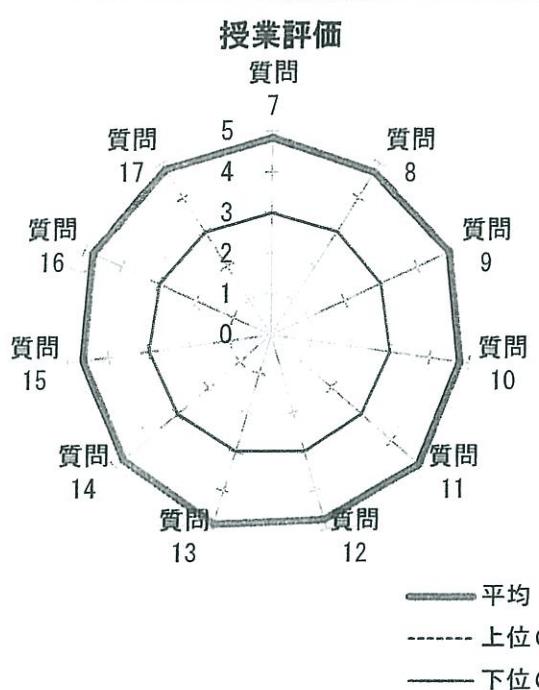
2019年度担当予定科目名：基礎看護技術 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

講義や演習の開始時点での学生の足並みを揃える、つまり、入り口を揃えるためには、事前課題を個人ワークとして実施し、予習段階での知識をある程度一定に保った後、授業を開始する方法か、IDのジグソー法のいずれかで授業の改善を試みる予定である。

科目コード 910 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 井口 悅子 基礎看護技術Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.9	3.0
質問8	4.7	4.8	3.0
質問9	4.9	4.9	3.0
質問10	4.8	4.8	3.0
質問11	4.9	4.9	3.0
質問12	4.8	4.8	3.0
質問13	4.9	4.9	3.0
質問14	4.7	4.8	3.0
質問15	4.6	4.7	3.0
質問16	4.8	4.8	3.0
質問17	4.8	4.9	3.0
平均	4.8	4.8	3.0

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

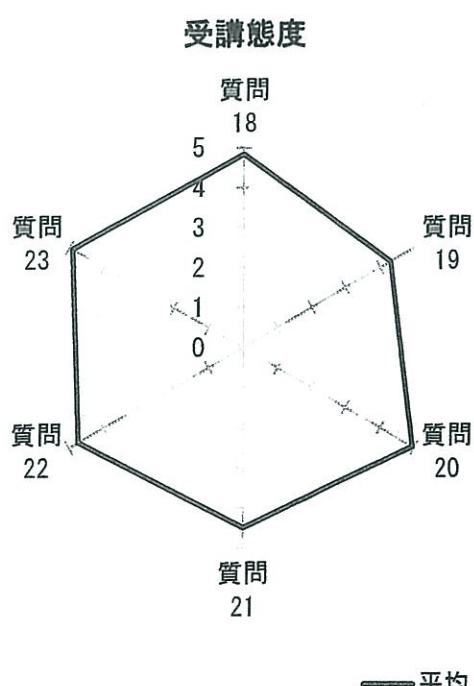
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.3
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.9
平均	4.7

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	井口悦子	基礎看護技術Ⅱ	72名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

基礎看護技術Ⅱ（演習科目）は基礎看護領域に所属する4名の教員が、各単元を担当し、演習は5名の教員が担当した。

授業評価の平均は4.8であり、全般的に高かった。今年度は、協同学習の1つであるジグソー法を新しい試みとして活用した。その単元では、特に学生は主体的に取り組み、グループに貢献していた。グループ内で相互に協力し、教え合い、共に学んでいく学習態度が育まれた結果と考える。

受講態度の評価の平均は4.7であった。質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」は平均4.3、質問21「授業の予習・復習は行ったか」は平均4.5であった。

上記2項目の平均が他の項目に比べ、低かった理由として、下記3点を考える。

1. 本科目は、「看護学概論」、「基礎看護技術Ⅰ」が同時期に開講されており、授業の目標説明や計画について説明はしていたが、時間割上は不規則であったため、学生は、目の前の授業を理解し、次の演習に備えることに精一杯になっていた可能性がある。そのため、授業目標を意識する、自ら主体的に復習することに至らなかったものと推察する。
2. グループで学ぶことについては効果的であり、そのための予習は十分、行っていた。しかし、個人としては不十分であったと評価しているものと考える。また、一つの単元は次の単元につながっており、次の準備をする過程で自然に復習していたが学生は意識していないかもしれない。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：井口悦子

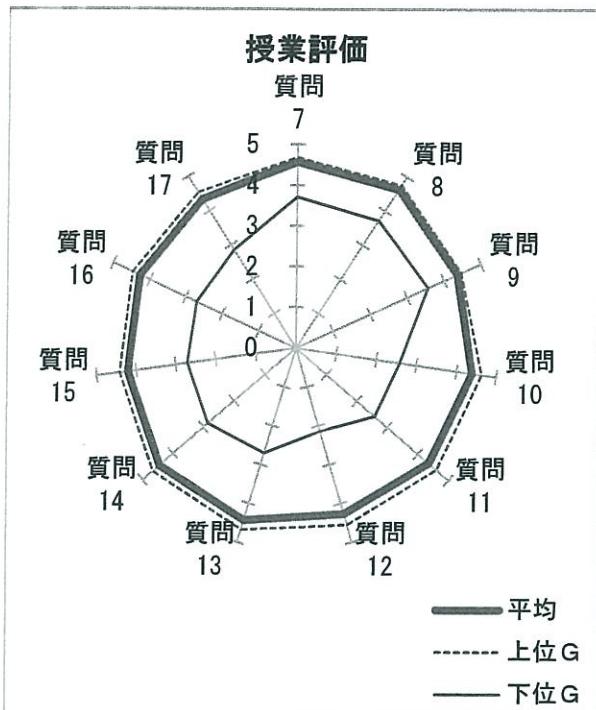
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度に向けての取り組みとして、下記の3点を考える。

1. 入学後、基礎看護学領域が担当する初めの授業で、前期に開講される科目内容について、その目標と関連性を明示し、看護の学び方について教授する。
2. 個人の事前・事後課題に対して、早い段階で個別にフィードバックする。
3. 学生が主体的に学ぶ協同学習方法を継続して取り入れる。

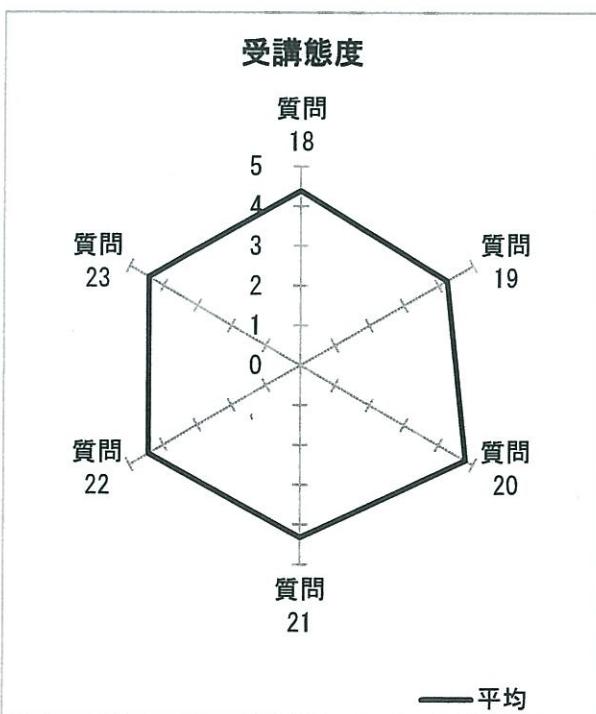
科目コード 918 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 永田 耕司 疫学・保健統計学 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	3.7
質問 8	4.6	4.8	3.7
質問 9	4.4	4.5	3.6
質問 10	4.4	4.6	2.6
質問 11	4.4	4.6	2.6
質問 12	4.3	4.6	2.1
質問 13	4.4	4.7	2.7
質問 14	4.5	4.7	2.9
質問 15	4.2	4.4	2.7
質問 16	4.3	4.5	2.7
質問 17	4.3	4.5	2.9
平均	4.4	4.6	2.9

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8：教員の授業時間遵守
 質問 9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	永田 耕司	疫学・保健統計学 I	75名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

例年、疫学保健統計 I は国家試験対象科目であるので、その内容を踏まえて、配布資料と小テスト 6 カテゴリー十点滴問題を取り入れた形式の授業を行ってきている。その小テストを改変して、定期試験を行ってきている。今回は平均 4.4 点と昨年 3.9 点と前回と比べて上がっていた。4.4 点とは、全体平均 4.5 点と比べ。0.1 点低いだけであった。授業では、資料作成を行い、その中に小テスト問題も組み入れて配布して教えている。ただ、この学問は学生にとって、非常に難しいと感じる学問のようである。例年、再試験が多かったが、今回は 9 名であった。再履修になる学生も 3 名いた。できるだけ理解力を高められるように、わかりやすく教えてはきている。学生には定期試験終了後はすぐに模範解答を提示して、自身の点数がわかるように配慮を行っている。

しかしながら、質問 15 「授業への理解」、及び質問 16 「授業に興味・関心・意欲が引き出せたか」が 4.2 点、4.3 点と質問項目の中では低かった。ただ、昨年度は 3.6 点と最も低かったのに対しては、0.8 ポイントも上がっていた。昨年 3.8 点と低かった質問 9 「教員の話し方」、質問 11 「教員の説明のわかりやすさ」、質問 12 「教員の授業環境に対する配慮」、14 「学生の理解度の確認と授業への反映」も 4.4 点から 4.5 点と高くなっていた。今後も引き続きわかりやすく、学生の理解を確認しながら授業を行っていきたい。当該教員も年齢的に計算力の衰えがみられているので、できれば若い教員に、引き継いでもらいたいと考えている。

II. 次年度に向けての取り組み

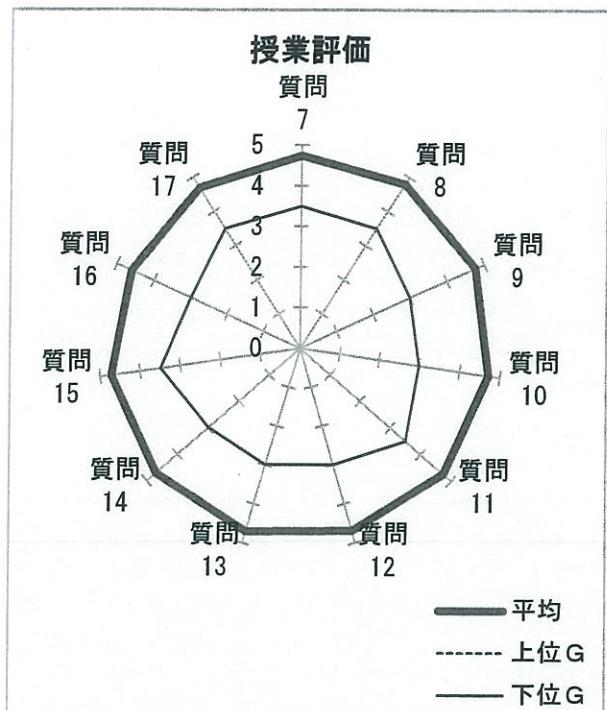
2019年度担当科目名：疫学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

看護は患者の体や心を学ぶ学問が中心であるので、国語や理科系が得意な学生が集めてきている。実習や演習、レポート、感想文はそう苦手としないが、計算は苦手と感じる学生がいる。学生に聞くと、疫学のような数学系は高校以来学んできていないので、頭が追いついてきませんと話す学生もいた。よって、これまで経験したことがないぐらい頑張ってきたと言う学生もいた。苦手であるが、その頑張りを引き続き応援していきたい。今後も更に理解を深められるような学習（保健統計・疫学・点滴の滴下数など）をさらに充実させていきたい。ただし、私自身も年齢的に数学的思考力の衰えを感じている。できれば、若い方に引き継いでもらいたいと思っている。

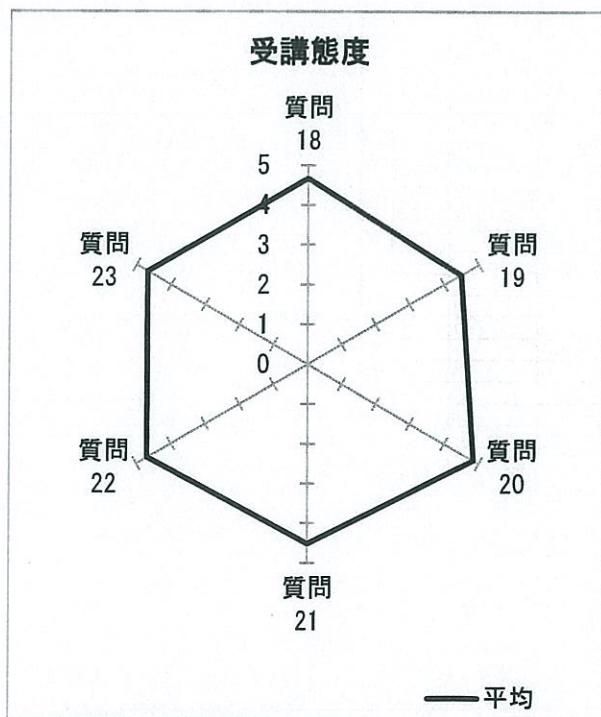
科目コード 919 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 岡田 純也 リハビリテーション概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	3.5
質問 8	4.8	4.8	3.5
質問 9	4.8	4.8	3.0
質問10	4.7	4.8	3.0
質問11	4.7	4.8	3.5
質問12	4.7	4.7	3.0
質問13	4.7	4.8	3.0
質問14	4.7	4.8	3.0
質問15	4.7	4.8	3.5
質問16	4.6	4.7	3.0
質問17	4.7	4.7	3.5
平均	4.7	4.8	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3 ...) の理解度
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岡田 純也	リハビリテーション概論	76名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1) 授業評価について

この科目は選択科目であったが、対象学年の全員の学生が履修し、授業評価の平均点は、4.7点であり、全実施科目平均値よりも高く、授業としては、学生にとって、満足いく授業であったと考えられた。

その平均点の中で最も低かった項目として、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」が4.6点であった。この科目的講義は概論であり、具体的な内容まで、講義でふれる時間がなく、やや興味が薄れ、理解するのも難しかった可能性があった。また、演習等を取り入れず、講義のみであったため、興味・関心・意欲を十分に引き出すことができなかつた。

また、平均点の中で最も高かった項目は、質問8「教員の授業時間遵守」が4.8点であった。全講義のコマにおいて、授業時間を意識しながら行っているため、評価が高かつたと考えられた。

2) 受講態度について

授業評価の平均点は、4.6点であった。実施科目平均値よりも高く、受講態度も良かったと考えられた。その平均点の中で最も低かった項目は質問21「授業の予習・復習をおこなったか」が4.5点であった。このことについて、事前学習の確認までは行っていないため、事前学習を行った学生と行わなかつた学生が多くいることが考えられた。

また、平均点の中で最も高かった項目は質問20「欠席回数」が4.8点であった。この科目は選択科目であったが、今後の看護に関連する科目でもあり、学生にとっては、将来に直結することであり、興味がある科目と考えられ、欠席も少なかつたため、評価が高かつた。

II. 2019年度に向けての取り組み

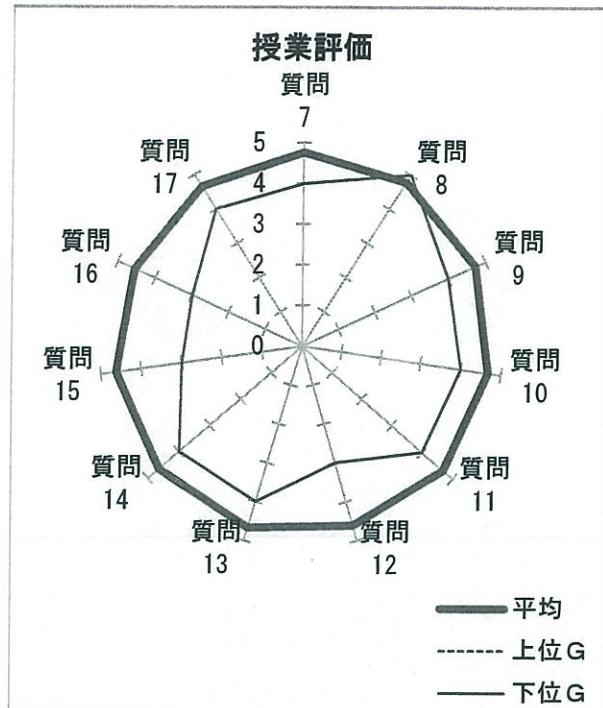
2019年度担当予定科目名：リハビリテーション概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業の興味や関心について、演習（グループワーク）などを取り入れ、主体的に学習できる講義を検討していく必要がある。その方法の例として、リハビリテーションに関する技術演習等も検討する。

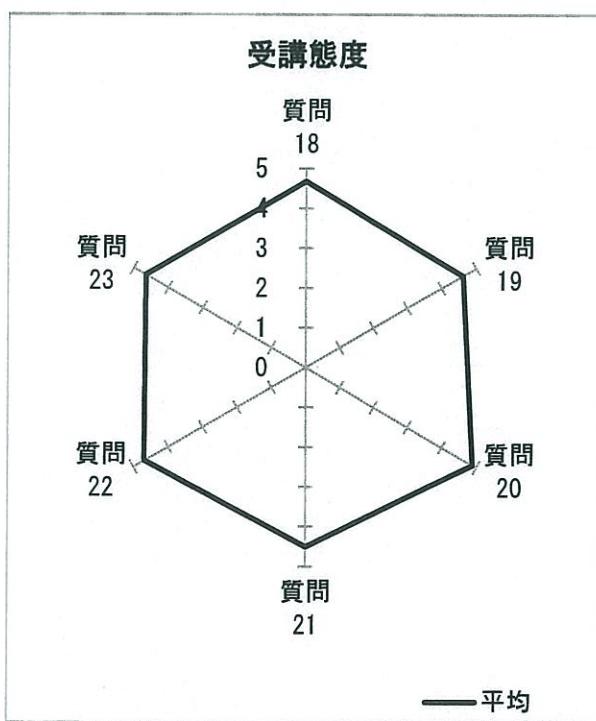
科目コード 921 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 岡田 純也 成人看護学概論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問7	4.8	4.8	4.0
質問8	4.8	4.8	5.0
質問9	4.7	4.7	4.0
質問10	4.7	4.7	4.0
質問11	4.7	4.7	4.0
質問12	4.6	4.6	3.0
質問13	4.7	4.7	4.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.6	4.7	3.0
質問16	4.6	4.6	3.0
質問17	4.7	4.7	4.0
平均	4.7	4.7	3.8

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.7

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岡田 純也	成人看護学概論	76名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1) 授業評価について

授業評価の平均点は、4.7点であり、全実施科目平均値よりも高く、授業としては、学生にとって、満足いく授業であったと考えられた。

その平均点の中で最も低かった項目として、質問12「教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)」、質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」が4.6点であった。この科目的講義は概論であり、具体的な内容まで、講義でふれる時間がなく、やや興味が薄れ、理解するのも難しかった可能性があった。しかし、最後の3コマ、演習(グループワーク)および発表を取り入れ、他の学生とのディスカッションを通して、興味や関心をしてもらおうと考えていたが、十分に浸透しなかったと考えられた。

また、平均点の中で最も高かった項目は、質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」、質問8「教員の授業時間遵守」が4.8点であった。質問7については、シラバス以外に「講義の学習目標、学習内容、キーワード、事前学習等」を記載した講義計画表を作成し、学生に配布し、講義前と講義後に説明しているため、評価が高かったと考えられた。さらに、質問8については、全講義のコマにおいて、授業時間を意識しながら行っているため、評価が高かったと考えられた。

2) 受講態度について

授業評価の平均点は、4.7点であった。実施科目平均値よりも高く、受講態度も良かったと考えられた。その平均点の中で最も低かった項目は質問21「授業の予習・復習をおこなったか」が4.5点であった。上記でも述べたように、講義計画表を使用しながら、次回の講義や事前学習について説明しているが、事前学習の確認までは行っていないため、事前学習を行った学生と行わなかった学生が多くいることが考えられた。

また、平均点の中で最も高かった項目は質問20「欠席回数」が4.9点であった。この科目は必修科目でもあり、演習も多く取り入れ、学生にとっては、将来に直結することであり、興味がある科目と考えられ、欠席も少なかったため、評価が高かった。

II. 2019年度に向けての取り組み

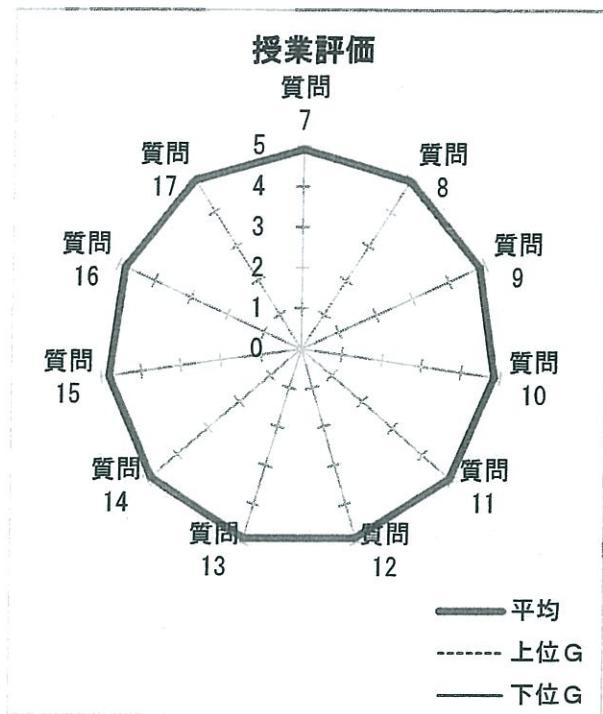
2019年度担当予定科目名：成人看護学概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業の興味や関心について、具体的な事例を取り入れる必要がある。また、演習(グループワーク)および発表の方法を検討していく必要がある。その方法の例として、模造紙に記載させ、各グループで発表させていたが、パワーポイントを活用することも検討する。

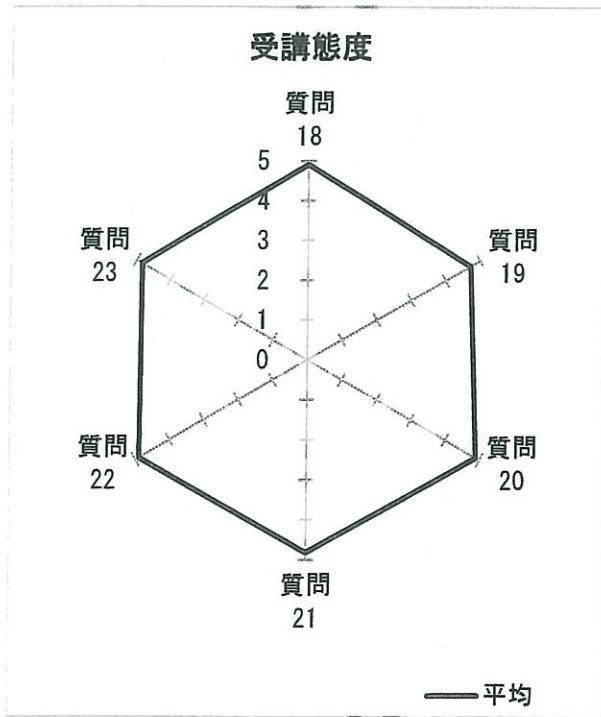
科目コード 922 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 石川 美智 成人看護学方法論II



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3 ...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	石川、平松、中島	成人看護学方法論Ⅱ	76名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均点が、昨年度の4.4点と比較し、本年度は4.9点であり高かった。カリキュラムにおける本科目の授業進度については、昨年同様前提知識として学習するはずの病態、治療、基礎看護技術、成人看護学概論の科目と同時進行あるいは先に本科目の講義が開講となった。シラバスは、技術演習の理解と技術を修得しやすいよう講義内容の変更を行ったが、全体にするとシラバスの変更は15コマ中2コマだった。一般的に授業評価は、授業内容が易しく、ボリュームが少なければ、学生の授業に対する満足度は高いと言われている。しかし、本科目の講義内容のボリュームについては、国家試験の出題傾向、実習で受け持つ機会が多く実習前に学修すべき内容を考えると減らせず、むしろ検査に関する内容を多く追加した。

授業進度、授業計画、授業内容・ボリュームは、昨年度と殆ど同様であるが、なぜ評価が高くなったのか、以下に要因を分析してみる。

1) 小テストの実施

学生の授業内容の理解度を把握するため、講義の最後に毎回5問前後の小テストを実施し、講義内で学生に採点させた。小テストにより、学生は講義の自分の理解度と講義で重要な内容が理解できたと思われる。また、間接的に教員も小テストで押さえる内容の説明をよりわかりやすく説明したのではないかと思われる。

2) 個人ワークの教材をわかりやすくした

講義内に毎回個人ワークを行わせている。本年度は、学生のレディネスにあわせ、個人ワークで使用する患者事例をわかりやすくした。

3) 週に2コマから1コマの講義時間に変更

毎年、学生からは、本科目は1コマの講義内容のボリュームが多く、難しいといわれている。昨年度は、週に2コマ続きで講義を行っていた。本年度は、月・火曜日の大村での講義が可能となり、時間割の曜日を変更した。週に1コマに講義数を減らしたこと、1度に教授される内容が減り、学生は理解しやすく、予習・復習などの負担も少なくなったと思われる。

本年度は、小テストで1コマ、1コマ、学生の理解度を把握したことが、結果的に学生の理解度を高め、学習の成果も学生に実感させることに繋がったと思われる。

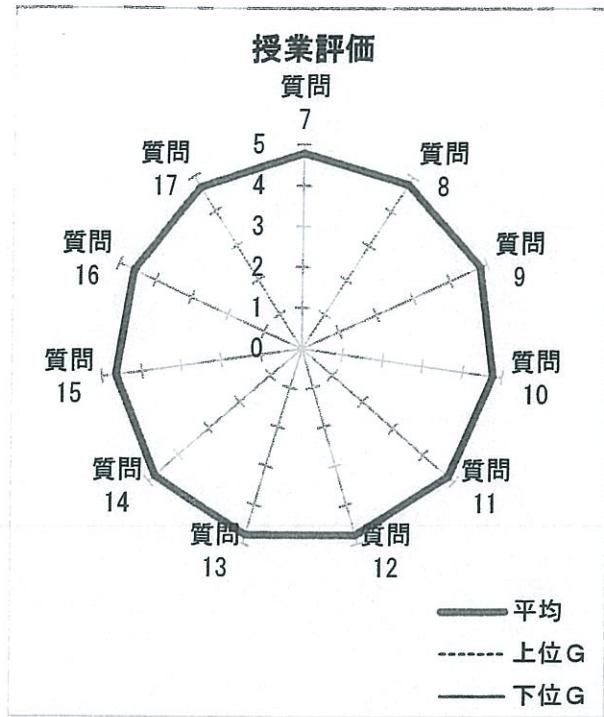
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：成人看護学方法論Ⅱ

本年度の授業評価が高かったのは、小テストの実施が影響していると思われるため、次年度も引き続き行う。本年度は、小テストで間違いの多かった項目についての対応が不十分であった。くすのきポータルを活用し、間違いの多かった項目について説明を行っていく。

科目コード 923 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 山口 智美 高齢者看護学概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

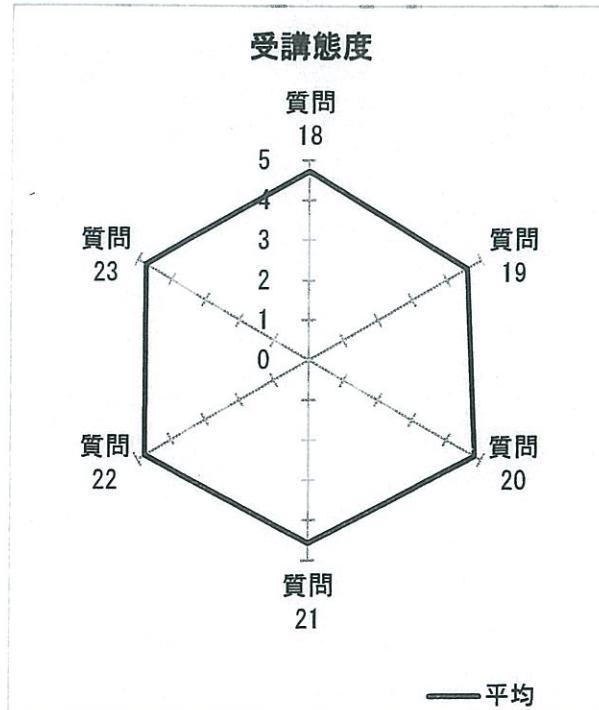
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.8
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	山口智美	高齢者看護学概論	76

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

受講生76名のうち57名が回答した（回答率75%）。質問番号7から17の11項目中8項目が4.8ポイント（最大5ポイント）であり、11項目の総得点平均も4.8ポイントだった。11項目の質問項目に対して55人中96～99%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と評価した（「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の評価者無し）。4.7ポイントの項目は「（自分は）授業を理解できたと思うか」「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」であった。また、4.6ポイントの項目は「授業は興味・感心・意欲を引き出したか」であった。本科目は2年次前期の専門必修科目であり、高齢者の身体的、社会的特徴や制度を概観する科目として後続する「高齢者看護方法論演習」「高齢者看護学方法論」「高齢者看護学実習Ⅰ」「高齢者看護学実習Ⅱ」の礎であり履修要件科目の位置づけである。理論や抽象的な考え方方に加え、人口動態や政策或いは歴史的変遷を網羅する内容は、学生にとって必ずしも‘楽しい’科目ではないと想像する。できるだけ例を用いたり、視覚教材を取り入れたりすることで学生の「興味・感心・意欲を引き出す」ように工夫をした結果としての評価だったと受け止めたい。

学生自身の授業態度及び取り組みを問う質問番号18～23の6項目の総得点平均は4.7ポイントだった（4.8ポイント3項目、4.7ポイント1項目、4.6ポイント2項目）。4.8ポイントの項目は「レポート・課題等に積極的に取り組んだ」と「私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴」だった。このことから学生は熱心かつ良好な態度で講義に望んだことがわかった。目標を理解して取り組む姿勢や予習・復習面については4.6ポイントなっていたことから、学生の学習者としての課題もうかがえた。

本評価及び学生の実際的なレディネスを踏まえ、2019年度当該科目の講義内容及び学習支援準備を行うこととする。学生には自立した学習者として、引き続き自主的に高齢者を取り囲む社会情勢及び健康問題に興味関心を持って学ぶことを伝えたい。日本の超高齢化に伴うケア分野では今後外国人の人材流入など問題の複雑化が想定される。自国の状況に現実的な興味を持ってもらうように教授方法を工夫する必要がある。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：高齢者看護学概論

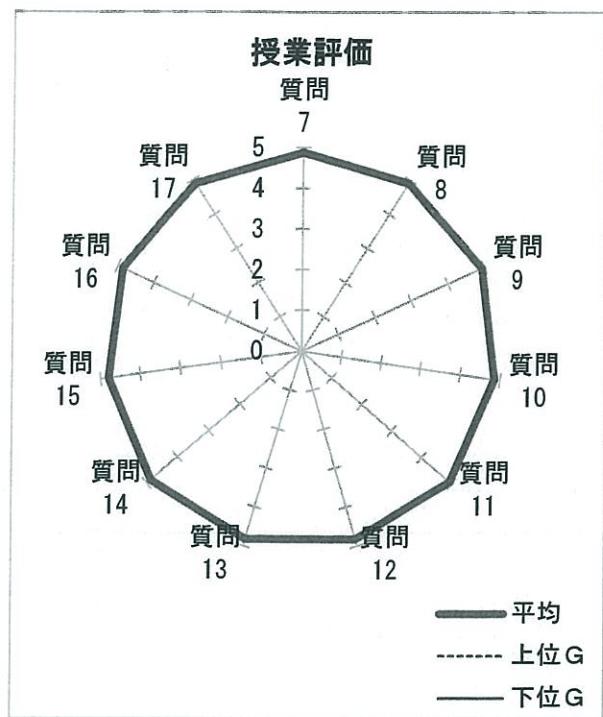
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

今年度評価が良好であった点を更に強化し、改善するために以下に取り組む。

- ・講義の最後には次の講義内容等を伝えて予習を促す。
- ・8回の講義の中間でサマリーを行う。
- ・講義終了時に関連する実際の国家試験問題を挙げているが、これを継続し、学びと資格試験の繋がり理解してもらう。
- ・学生とのコミュニケーションを維持・向上するためにアクションシート（フィードバック用）を継続的に使用する。
- ・視覚教材を精選・活用し、学生のイメージ作りを助ける。

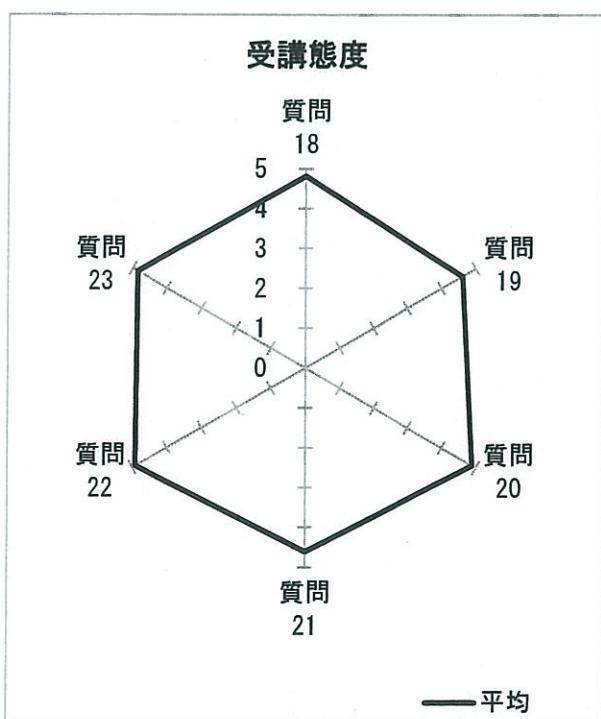
科目コード 924 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 岩瀬 貴子 精神看護学概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬貴子	精神看護学概論	76名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

71名の学生が回答。受講態度上位G(71名)の評価は、全体的に4.8以上であり、昨年(全体4.5以上)と比較し、全体的に評価がよかつた。受講態度下位Gの学生の評価がなかったため、詳細はわからない。次年度も現在の講義形式を継続していく。

II. 2019年度に向けての取り組み

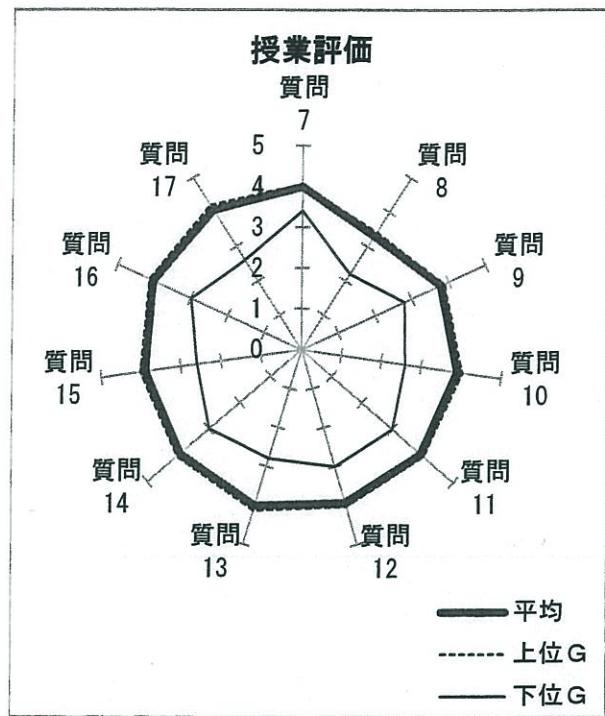
2019年度担当予定科目名：精神看護学概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

新たな取組みは現在検討していない。

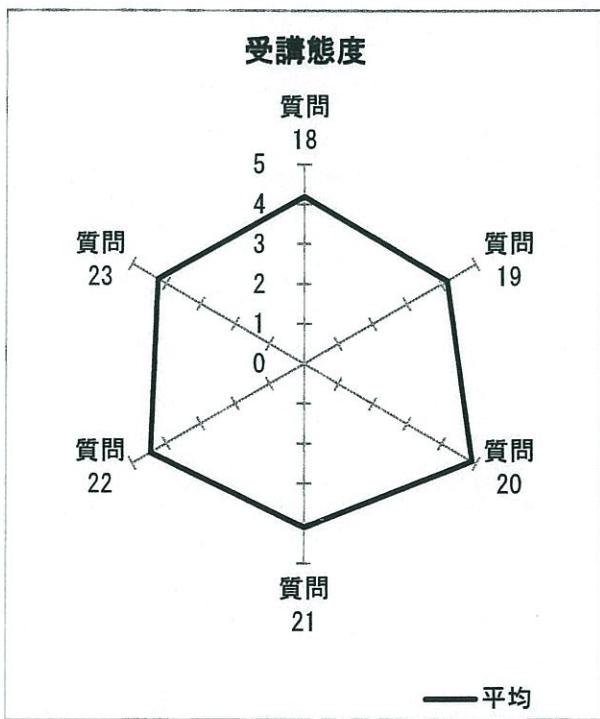
科目コード 926 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 米村 かおり 小児看護学方法論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.0	4.1	3.4
質問8	3.3	3.4	2.2
質問9	3.8	3.9	2.8
質問10	3.9	4.0	2.6
質問11	3.9	4.0	3.0
質問12	3.9	4.0	3.0
質問13	4.0	4.1	2.8
質問14	3.9	4.0	3.0
質問15	3.9	4.0	2.6
質問16	4.0	4.1	3.0
質問17	4.1	4.2	2.6
平均	3.9	4.0	2.8

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問8：教員の授業時間遵守
質問9：教員の話し方
質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
質問11：教員の説明のわかり易さ
質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.2
質問20	4.9
質問21	4.1
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
質問21：授業の予習・復習をおこなったか
質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護	看護	米村 かおり	小児看護学方法論	72

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全実施科目と比較して、授業評価の平均は-0.5 ポイント、受講態度の平均は-0.1 ポイントであった。

特に授業時間遵守については、3.3 ポイントと最も低く、幾度か 5 分程度時間を超過したことがあったことが影響したものと考える。次に低かった項目は授業の目標説明とシラバスに沿った実施、説明のわかりやすさであり、シラバスとの整合性の取れた内容ではあったが、講義全体を通してまとめの時間をとれず、各回の学習目標の到達評価を学生とともに行えなかつたことが、シラバスとの整合性や、学習目標到達に影響していると考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：小児看護学方法論

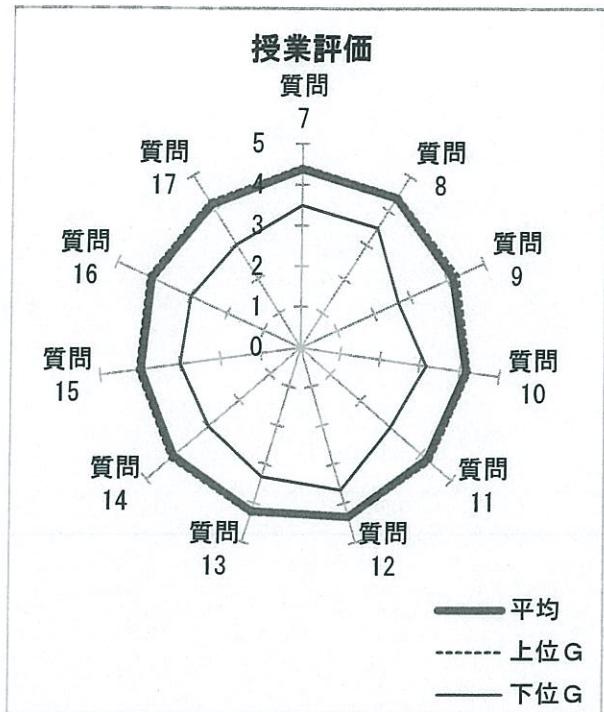
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

講義内容の重複、進度を見直し、国家試験出題基準や実習病棟で特に必要となる看護技術などを配置し、効果的な学習になるよう調整する。

また既習内容の復習や、事前学習を有効活用し、講義時間を延長することなく、学生の質問にもできるだけその場で答えられるように調整していく。

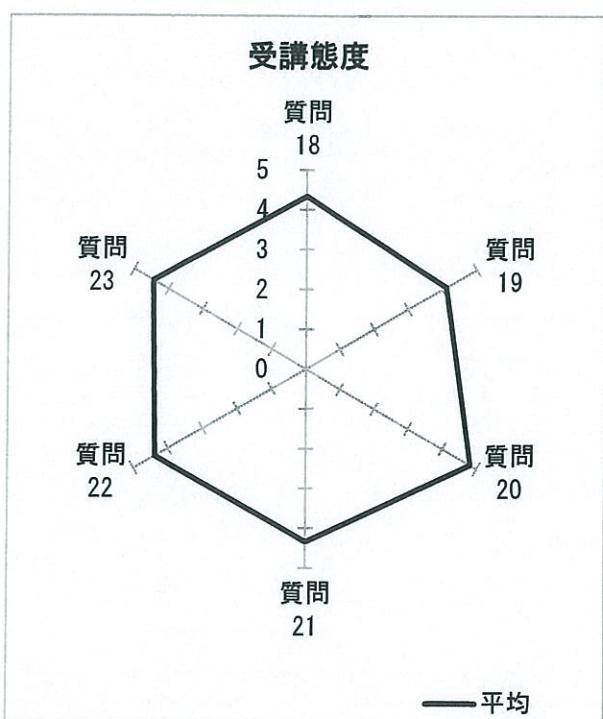
科目コード 927 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 堀川 新二 成人看護学方法論Ⅲ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.5	3.5
質問 8	4.4	4.5	3.5
質問 9	4.2	4.3	2.7
質問10	4.2	4.3	3.2
質問11	4.2	4.3	3.0
質問12	4.3	4.4	3.7
質問13	4.2	4.3	3.3
質問14	4.1	4.2	3.0
質問15	4.0	4.1	3.0
質問16	4.1	4.2	3.0
質問17	4.2	4.3	3.0
平均	4.2	4.3	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.1
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	堀川、平松、大曲、石川、中島、阿部、岡田	成人看護学方法論Ⅲ	73名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価について

質問7~17は、94.3~77.2%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。平均値は4.4~4.0である。最も評価が高かった4.4を示した項目は「質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施」「質問8：教員の時間遵守」であり、最も低い4.0を示した項目は「質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか」であった。授業は、成人看護の急性期と慢性期の患者事例をもとに看護過程の展開を学修するため、事例に対するアセスメントなどの事前学修を基にグループワーク、シミュレーションなどの演習を実施した。シラバスを基に事前に演習のスケジュールを示し、講義演習ごとにGIO・SBOの説明を行ったため、学生は目標を理解して演習に臨めていたと思われる。今年度から看護過程記録用紙の改訂を行った。そのため、記載要領を作成して学生に示し、事例のアセスメントなど事前学習を促した。その成果をグループワークで検討し、受け身ではなく自主的な姿勢で取り組めるようにギャラリーウォークを導入した。しかし、他者と検討した内容を自分の成果に活かしていくことが難しい学生や、記載要領の意味を理解して活用できず他の参考資料を参考にして記録用紙に記載する学生が見受けられた事から、授業に対する理解が不十分であるという評価につながったことも考えられる。今後、学生の理解を確認した上で次のステップに進めていく必要がある。

2. 受講態度について

質問18~23は、92.9~81.5%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。平均値は4.8~4.1である。「質問19：授業内容や到達目標を理解して受講していたか」が最も低く平均値4.1であった。回答の内訳では「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」と答えた学生はおらず、「どちらかといえばそう思う」が36名56.3%、「どちらともいえない」が8名12.5%であった。授業評価では、目標説明に対する評価が比較的高かったものの授業の理解が低かったことからも、目標の理解についての自信がやや低い学生が多かったと考える。グループワークの工夫として、参加が受け身にならないようにギャラリーウォークを実施したが、その目的が十分に伝わっていなかった学生もいたかもしれない。今後、到達目標や評価を明確に伝え、学生が主体的に学べるように導いていく必要がある。

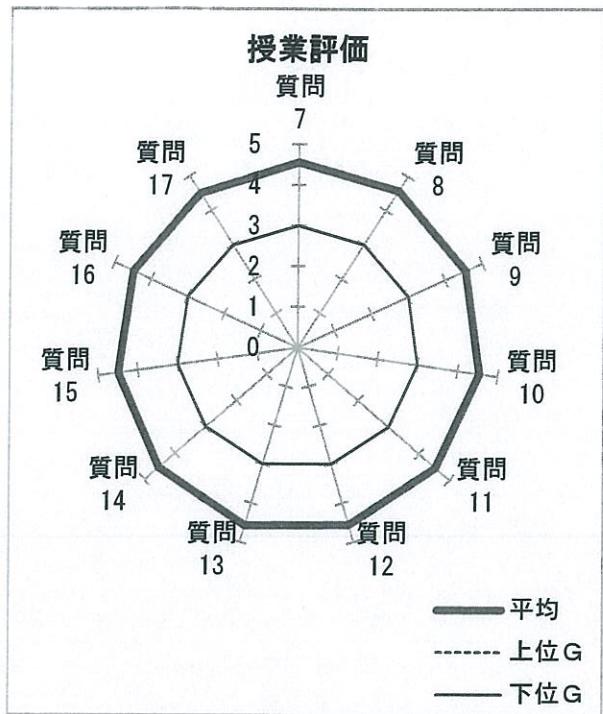
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：成人看護学方法論Ⅲ

今年度は記録用紙の改訂を行ったため、記録方法の理解も深められるように取り組んだ。この記録用紙を用いて成人看護学実習を進めていく中で、さらに改善点を検討し、次年度の講義に繋げていく。また、グループワークが受け身にならないようにするための工夫を行ったが、さらに発展させるために、学生自身が協同学習の目的を理解して取り組めるように、目標設定や評価を明確につたえていくよう、講義演習の内容を組み立てていく。

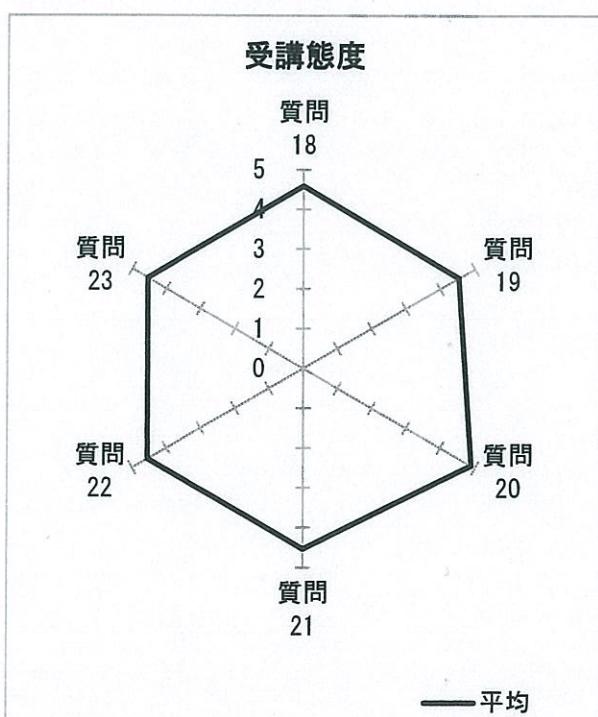
科目コード 929 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 平松 美紀 ゼミナールIV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	3.0
質問 8	4.6	4.6	3.0
質問 9	4.6	4.6	3.0
質問10	4.5	4.6	3.0
質問11	4.5	4.6	3.0
質問12	4.6	4.6	3.0
質問13	4.6	4.6	3.0
質問14	4.5	4.6	3.0
質問15	4.5	4.5	3.0
質問16	4.5	4.5	3.0
質問17	4.5	4.5	3.0
平均	4.5	4.6	3.0

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8：教員の授業時間遵守
- 質問 9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	平松美紀	ゼミナールIV(看護シミュレーションI)	72名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価について

受講した72名のうち、54名がアンケートに回答している。

本科目は、基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、高齢者看護学、精神看護学の6領域のオムニバス形式で構成している。今後臨地実習に役立つ内容として、フィジカルイグザミニーションや、対象への身体的・心理的・社会的側面からのアセスメントができるなどを主な目的とし、既習の知識・技術を応用して実践できるように組み立てている。各領域で事前にオリエンテーションを行い、事前学習を提示し、演習・シミュレーションやグループワークに臨む内容となっている。

質問7～17は、学生の約97%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。平均値は4.5～4.6であり、概ね高い評価であった。一方で、どの質問についても1～2名の学生が、「どちらともいえない」と答えている。オムニバスの科目であり、評価が難しいが、学生の臨地実習に向けた関心に関連していると考えられる。本科目は、前期の専門科目と同時進行であり、演習が多い中で実施している。そのため、本科目の演習について説明をする時間を確保するのにやや苦労する場合がある。学生は、課題が重複する中での演習であり、やや混乱することもあったのではないかと考える。しかし、本科目は後期に控えている臨地実習にむけたものであり、講義・演習の特徴、目的、目標を十分に伝えていく必要がある。

2. 受講態度について

質問18～23は、約95%以上の学生が、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。平均値は4.2～4.6である。

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」については、2名の学生が「どちらともいえない」と答えている。質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」で、2名の学生が「どちらともいえない」と答えていることから、学習目標と評価方法について十分に伝えられなかつたのではないかと考える。

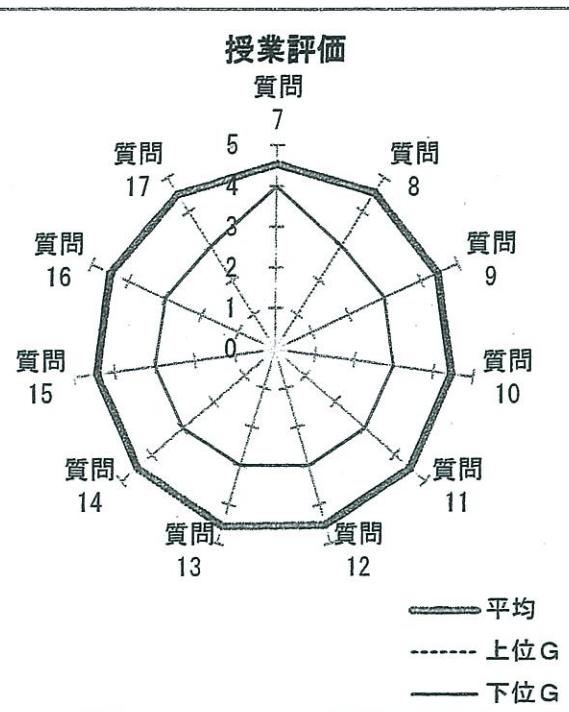
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：ゼミナールIV(看護シミュレーションI)

オムニバス形式の授業であり、各科目について把握するのは困難である。しかし、学習目標と評価方法については最初に明確にし、学生に伝えるように、領域間で共通理解をしたいと考える。

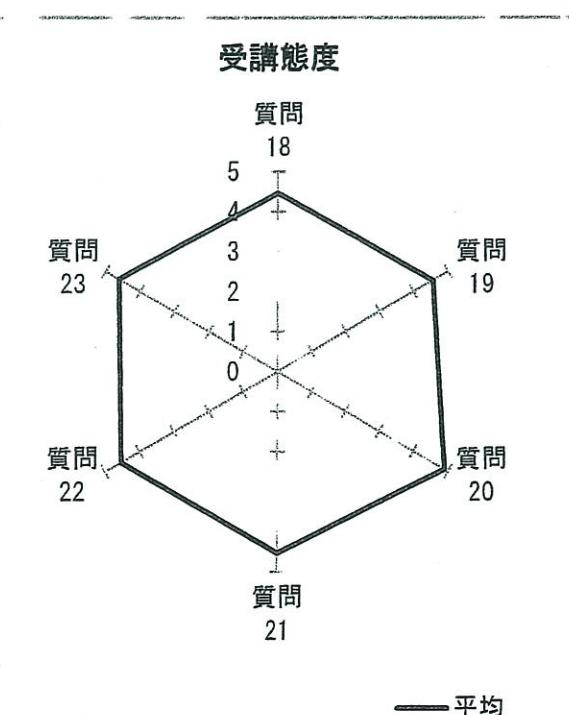
科目コード 931 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 藤岡 奈美 母性看護学方法論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	4.0
質問 8	4.6	4.6	3.0
質問 9	4.5	4.5	3.0
質問 10	4.5	4.5	3.0
質問 11	4.5	4.5	3.0
質問 12	4.5	4.6	3.0
質問 13	4.6	4.6	3.0
質問 14	4.5	4.5	3.0
質問 15	4.4	4.5	3.0
質問 16	4.5	4.5	3.0
質問 17	4.5	4.5	3.0
平均	4.5	4.5	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.6
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	藤岡奈美	母性看護学方法論	73

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目の授業評価は、平均4.6-4.5で推移しており、昨年度よりやや低い。しかし、個別結果を見ても、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」に該当した学生はいなかった事は評価できる。つまり、母性看護学方法論においては、授業目標とシラバスに沿った授業展開ができ、学生も評価していると分析する。講義内容には、より実践をイメージできるように画像や動画を取り入れて展開したことと、興味・関心・意欲を引き出すことができたようであった。しかしながら、1名の下位学生は、全ての質問項目において「どちらともいえない」と回答しており、理解できていない事が危惧される。無記名であるため、個人が特定できず、フォローしようがないのが、残念であるが、後期に実施する母性看護学実習において指導内容に本講義の内容を確認する事を行い、学力の向上を目指す。

II. 2019年度に向けての取り組み

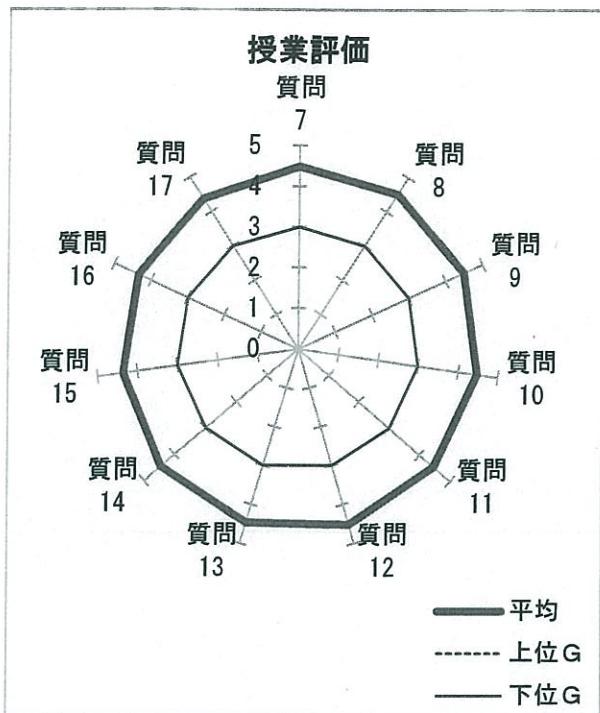
2019年度担当予定科目名：同じ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度も、本年度同様に講義内容について科目担当する教員と共に連携して理解力が身につくような授業展開をめざし、更に国家試験との兼ね合いを考慮して取り組みたいと考えています。また、次年度の対策として、本科目と関連がつよい「女性生殖器疾患」を担当いただいている医療センターの科目責任者と国家試験対策および科目到達目標に沿った講義展開であるか検討する予定である。

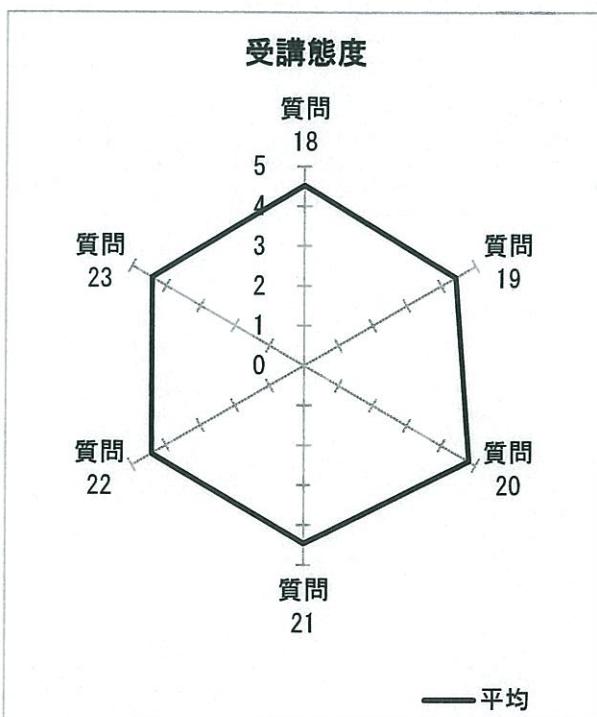
科目コード 932 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 岩瀬 貴子 精神看護学方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	3.0
質問 8	4.5	4.5	3.0
質問 9	4.5	4.5	3.0
質問10	4.5	4.5	3.0
質問11	4.5	4.5	3.0
質問12	4.5	4.5	3.0
質問13	4.5	4.5	3.0
質問14	4.5	4.5	3.0
質問15	4.4	4.4	3.0
質問16	4.3	4.4	3.0
質問17	4.4	4.4	3.0
平均	4.4	4.5	3.0

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8：教員の授業時間遵守
- 質問 9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.5

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬貴子 應戸麻美	精神看護学方法論演習	73

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

66名の学生が回答。授業態度上位G(65名)、授業態度下位G(1名)であった。授業態度上位Gの質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」を1名が“どちらかといえばそう思わない”を評価していた。どのコマを想定して評価しているかはわからないが、演習課題の複雑さはあったと考える。学生に理解してほしい情報と演習内容が混在している部分があったと考える。

しかし、66名中1名が“どちらかといえばそう思わない”と評価、“どちらともいえない”が2名、“どちらかといえばそう思う”28名、“そう思う”が35名であった。9割以上の学生は効果的な教材の使用ができていたと評価していた。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：精神看護学方法論演習

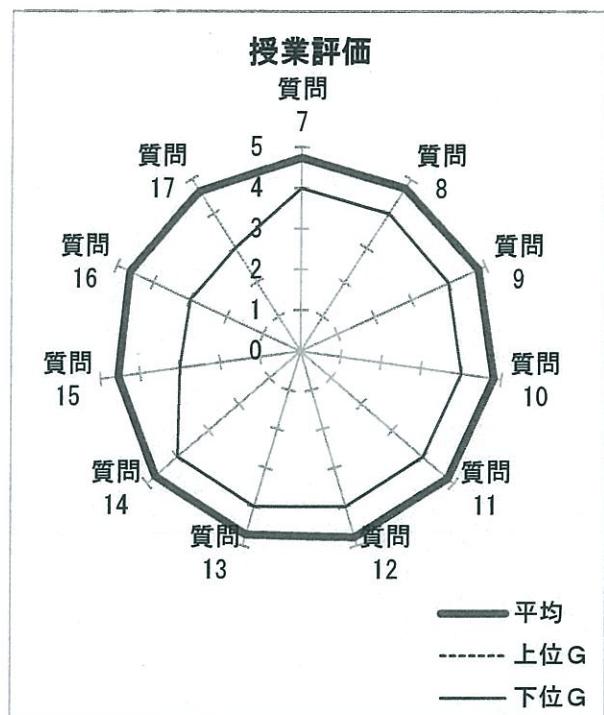
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教材・機器・板書等の効果的な使用について、講義・演習資料を複雑にせず、学生が学修を積み重ねていけるように、工夫を行う。

また、次年度はIDを用いて学生の自主的な学修を促進できるよう演習内容を再検討する予定である。

科目コード 933 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 岩瀬 貴子 精神看護学方法論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.0
質問 8	4.7	4.8	4.0
質問 9	4.8	4.8	4.0
質問10	4.8	4.8	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.7	4.7	4.0
質問14	4.7	4.8	4.0
質問15	4.6	4.6	3.0
質問16	4.6	4.7	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.7	4.7	3.7

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8：教員の授業時間遵守

質問 9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

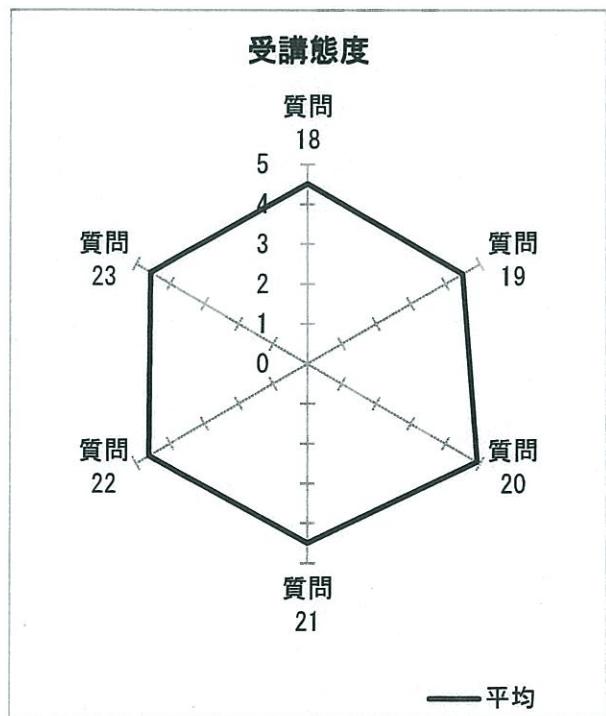
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬貴子	精神看護学方法論	73

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

57名の学生が回答。受講態度上位G(56名)、受講態度下位G(1名)であった。受講態度下位G(1名)の学生は、質問18「自分は真面目に取り組んだと思うか」質問19「授業内容や到達目標を理解して取り組んだか」の2項目が、「どちらともいえない」と評価していた。

質問15「自分は授業を理解できたと思うか」の平均値が4.6であり、学生の理解の程度を毎回小テストや小課題で評価していたが、その部分だけでは講義毎の理解度は評価が難しいと考えた。

II. 2019年度に向けての取り組み

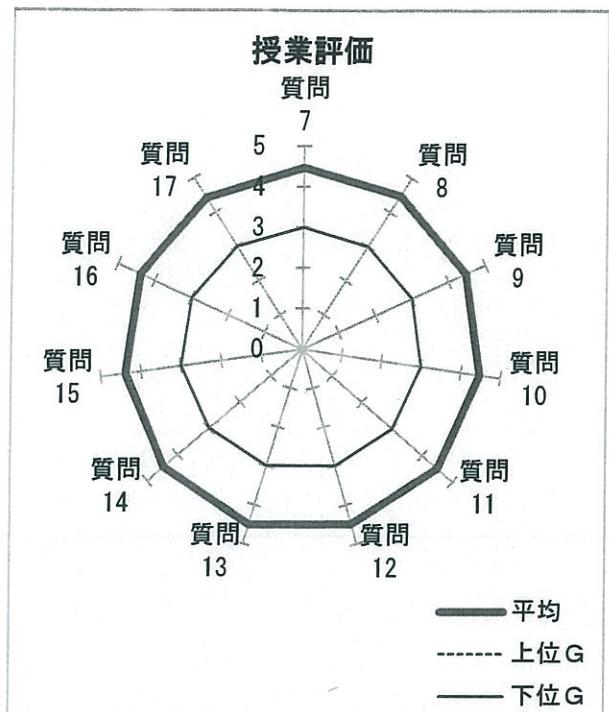
2019年度担当予定科目名：精神看護学方法論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

質問15「自分は授業を理解できたと思うか」の平均値が4.6と低かったため、わかりにくかったことについてレスポンスペーパーに学生に記載してもらえるよう協力を依頼する。また、わからなかつたことを中心に次回講義前に振り返りを行い、補完するようにする。

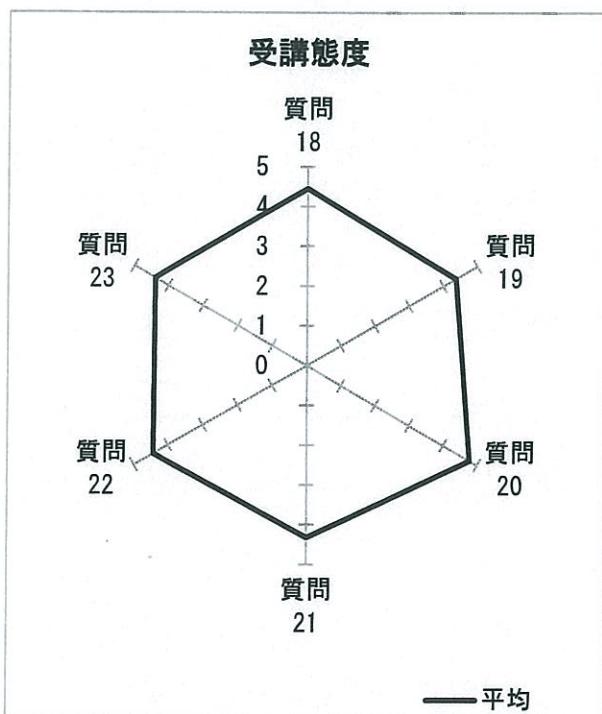
科目コード 934 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 馬場 保子 高齢者看護学方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	3.0
質問 8	4.5	4.5	3.0
質問 9	4.5	4.5	3.0
質問10	4.5	4.5	3.0
質問11	4.5	4.5	3.0
質問12	4.5	4.5	3.0
質問13	4.5	4.5	3.0
質問14	4.5	4.5	3.0
質問15	4.4	4.4	3.0
質問16	4.4	4.4	3.0
質問17	4.4	4.4	3.0
平均	4.5	4.5	3.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	馬場保子	高齢者看護学 方法論演習	72名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価、学生の授業態度評価の得点平均はそれぞれ4.5ポイントであり、総合的におおむね高い評価を得たといえる。3年生の前期は、他の科目でも課題が出されるため、数回にわたる演習計画を事前に提示し、学生が計画的に学習に取り組めるように配慮した。この科目は、グループワークが多く、学生のグループダイナミクスを活用できるように課題の取り組みに対して丁寧にフィードバックするよう工夫した。高齢模擬患者や臨床指導者に演習に参加してもらうことによって学生のモチベーションが向上し、実践的な技術演習となった。また、始業時に学生が目標を立案して演習に取り組めるようにアクションシートを活用した。アクションシートは、6回分の授業が一つの用紙となっており、ポートフォリオの役割をしているため、学生自身が到達度を把握することができる。

「質問21：授業の予習・復習を行ったか」は、他の項目と比較して4.3点と低い。また、この科目は、3年次後期の高齢者看護学実習Ⅰにつながる科目でもあるため、学生が到達目標に向けて主体的に学習に取り組めるよう工夫を行っていく。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：高齢者看護学方法論演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今年度高い評価を受けた部分を維持し、さらに改善するために以下の取り組みを行う。

- ・高齢者模擬患者や臨床指導者の演習参加を継続する。
- ・演習課題事例の工夫

特に、地域で生活するために必要な高齢者援助技術に焦点を当て、社会資源などの既習知識を活用できる事例とする。また、演習後に振り返りを十分に行えるように時間配分を工夫する。

- ・選択的課題を維持する。

学生の興味関心に応じて課題を選択できることを継続する。

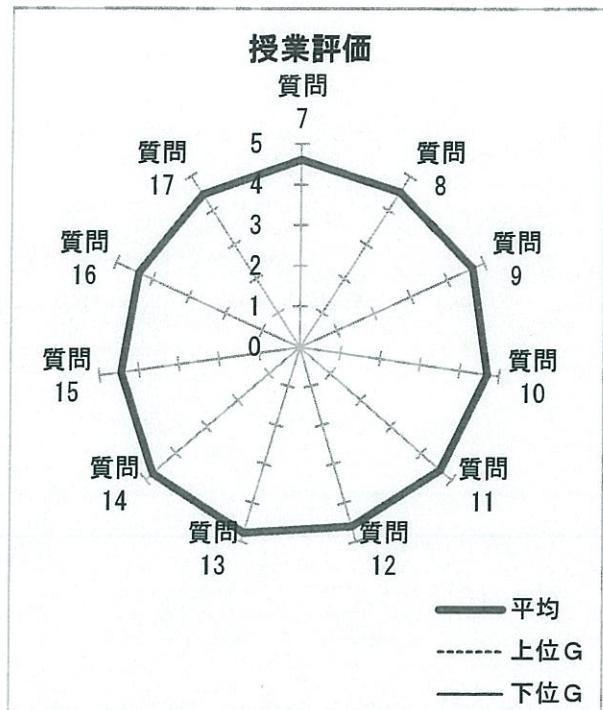
- ・授業の最後に次回の授業内容を確認することで予習及び目標確認を促す。

具体的な到達目標を示し、主体的に課題に取り組めるようにする。

- ・アクションシートを継続的に活用し、学生とのコミュニケーションをはかるよう努める。

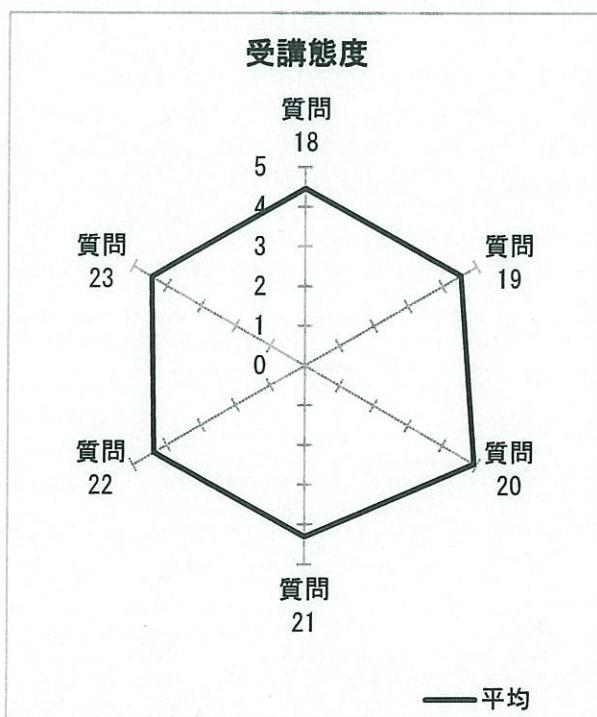
科目コード 937 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 中村 寿子 公衆衛生看護活動論 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 8	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 9	4.7	4.7	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.6	4.6	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.5	4.5	#DIV/0!
質問16	4.4	4.4	#DIV/0!
質問17	4.5	4.5	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	中村 寿子 森本 典子 原岡 智子	公衆衛生看護活動論 I	15名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

対象別保健師活動について、近年の動向や法的根拠も交えながら講義等を行った。どの対象も事例を用意し、保健師活動についてグループワークを行い、対象別の保健活動について理解を深められるよう工夫した。高齢者保健の分野については、ゲストスピーカー(大村市保健師)を招き、大村市における高齢者保健活動の実際について話していただいた。在宅領域の講義にも大村市の行政職の方がみえられたとのことで、学生からは内容がかぶった部分もあったということだったので、他領域の講義内容についてもシラバスからだけでなく、情報収集が必要だと感じた。

災害時の保健活動については、災害のイメージ化や災害時の情報収集・分析・判断・対応・共有・報告について理解するために、場面設定をした演習を企画した。学生からは、災害時の公衆衛生看護活動について理解ができたという意見もあった。

授業評価は4.6、下位グループ評価はなかったため、学生自身は理解できたと評価している。授業に対する興味・関心が4.4と少し低い。

II. 2019年度に向けての取り組み

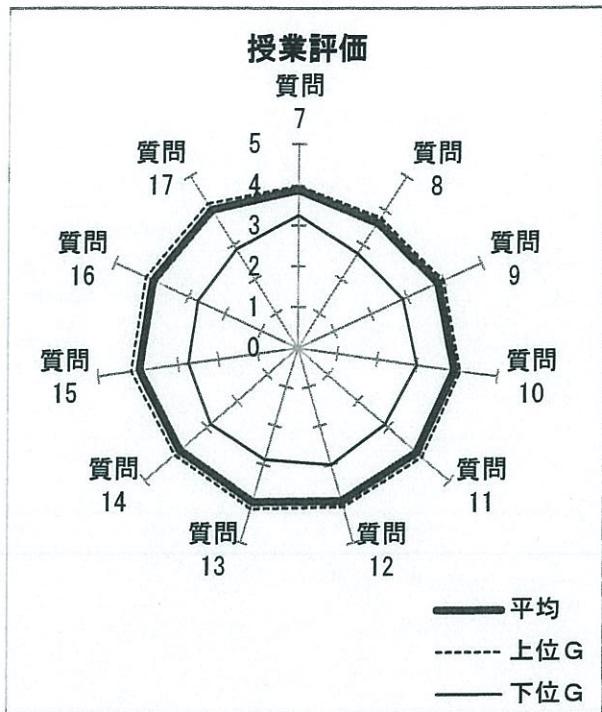
2019年度担当予定科目名：公衆衛生看護活動論 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

3年生前期の科目で、保健師活動のイメージ化が図ることが難しいが、事例等を効果的に用いながら興味や関心を引き出すような工夫を行いたい。

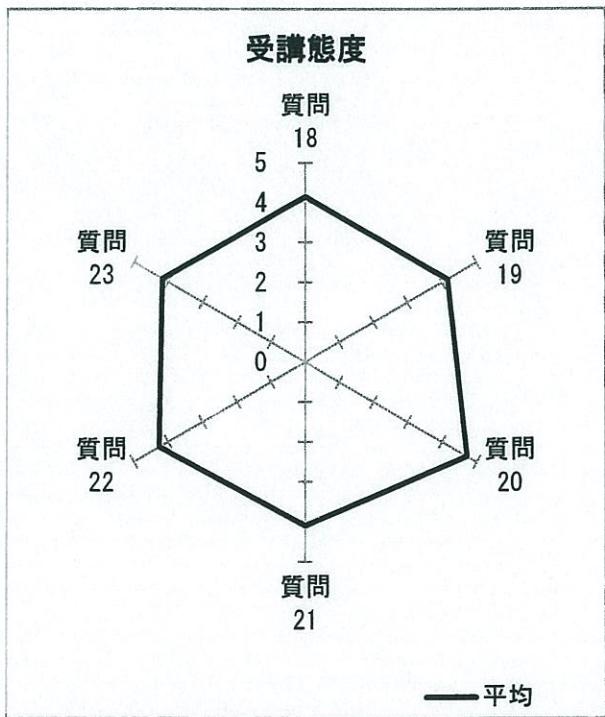
科目コード 938 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 米村 かおり 小児看護学方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	3.9	4.0	3.3
質問 8	3.6	3.8	2.8
質問 9	3.8	4.0	2.9
質問 10	3.9	4.1	3.0
質問 11	3.9	4.1	2.9
質問 12	3.9	4.1	3.0
質問 13	4.0	4.1	2.9
質問 14	3.9	4.0	2.9
質問 15	4.0	4.2	2.8
質問 16	4.0	4.2	2.8
質問 17	4.0	4.2	2.9
平均	3.9	4.1	2.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.2
質問20	4.7
質問21	4.1
質問22	4.3
質問23	4.2
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護	看護	米村 かおり	小児看護方法論演習	72

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全実施科目と比較して、授業評価の平均は-0.6 ポイント、受講態度の平均は-0.1 ポイントであった。

特に授業時間遵守については、3.6 ポイントと最も低く、幾度か 5 分程度時間を超過したことがあったことが影響したものと考える。次に低かった項目は授業の目標説明とシラバスに沿った実施、教員の話し方、説明のわかりやすさであり、シラバスに沿った講義内容であったが、講義全体を通してまとめの時間をとれず、各回の学習目標の到達評価を学生とともにに行えなかつたことが、シラバスとの整合性や、学習目標到達に影響していると考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：小児看護方法論演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

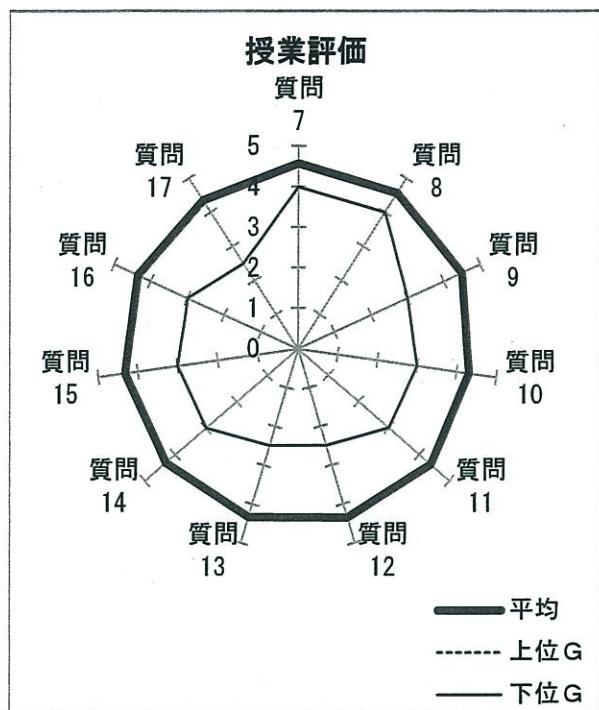
講義内容の重複、進度を見直し、国家試験出題基準や実習病棟で特に必要となる看護技術などを配置し、効果的な学習になるよう調整する。

演習については、小児看護学方法論と連動し、講義、演習を有機的につなぐこと、また、個々の学生の理解を促せるよう、ふたクラスに分けて演習を行い、学生一人一人に合わせた学習支援ができるよう工夫する。

また既習内容の復習や、事前学習を有効活用し、講義時間を延長することなく、学生の質問にもできるだけその場で答えられるように調整していく。

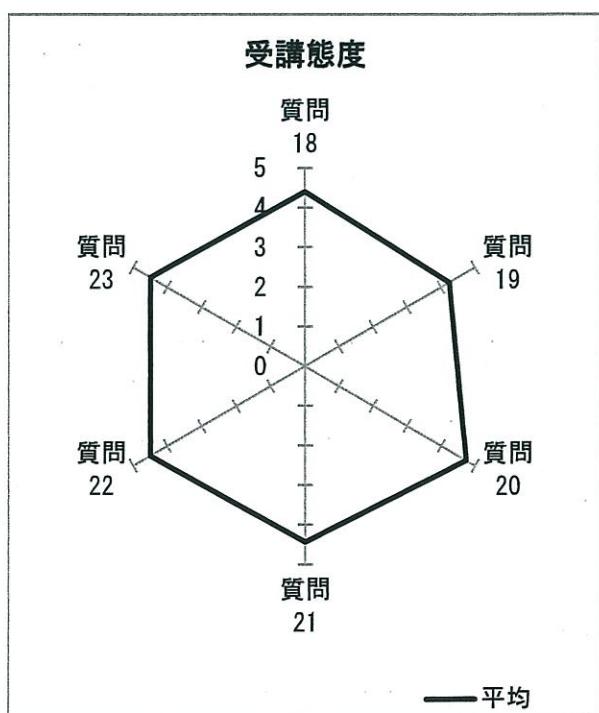
科目コード 940 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 大曲 純子 ゼミナール I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.6	4.6	4.0
質問8	4.6	4.6	4.0
質問9	4.5	4.6	3.0
質問10	4.3	4.4	3.0
質問11	4.4	4.4	3.0
質問12	4.4	4.4	2.5
質問13	4.3	4.4	2.5
質問14	4.3	4.4	3.0
質問15	4.3	4.4	3.0
質問16	4.4	4.4	3.0
質問17	4.4	4.4	2.5
平均	4.4	4.4	3.0

- 質問7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8 : 教員の授業時間遵守
- 質問9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.7
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	大曲純子	ゼミナールⅠ	73

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は、4.3～4.6という結果であった。ゼミナールⅠは救急・クリティカルの講義演習であるため、救急搬入された患者の初期治療を行う設定で、循環障害のある気管内挿管が必要な事例と熱傷患者の事例を用いて、講義を行い、その後実際にシミュレーションをおこなった。シミュレーションを行う前には使用する物品を提示し、触ってもらい使用方法等を説明した。実際の物品に触れ使用方法を確認したこと、理解は深まったと考えるが、シミュレーションでは、看護師役になり緊急を要する患者をアセスメントしながら行動する事は難しかったのではないかと考える。授業評価が4.3であったのは、質問10、13、14、15であった。1G10名前後で行ったため、シミュレーションの中で看護師役として参加できた学生もいたが、そうでない学生は特に理解することが難しいことも合ったのではないかと考える。来年度はシミュレーション方法について、初期治療のイメージが付きやすいようにさらに検討し、アセスメントの方法についてもデブリーフィングを詳しく行っていけるような取り組みが必要があると考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

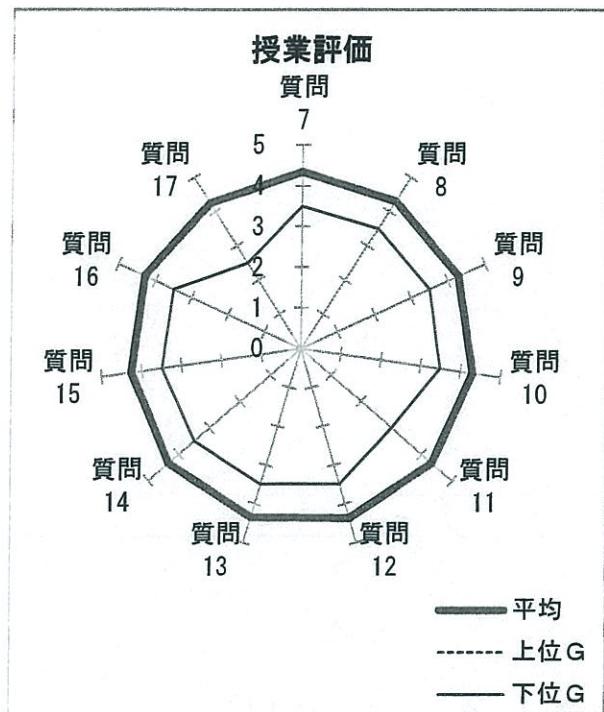
2019年度担当予定科目名：ゼミナールⅠ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生の知識を学びにつなげるようシミュレーションは必要であると考えるため来年度も続けていきたいと考える。シミュレーションでのグループ人数等の検討と、シミュレーションの中で、何を理解していないといけなかったのかがわかるようにチェックリストを作成して学生自身が学びを明確にできるようにしていくこと、デブリーフィングがさらに充実すればその場での疑問も解決し理解も深まると思われるためデブリーフィングの方法について検討などを行っていきたいと考える。

科目コード 941 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 藤岡 奈美 母性看護方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.3	4.4	3.5
質問8	4.3	4.3	3.5
質問9	4.3	4.3	3.5
質問10	4.3	4.3	3.5
質問11	4.3	4.4	3.0
質問12	4.4	4.4	3.5
質問13	4.3	4.4	3.5
質問14	4.3	4.4	3.5
質問15	4.3	4.3	3.5
質問16	4.3	4.3	3.5
質問17	4.2	4.3	2.5
平均	4.3	4.3	3.4

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

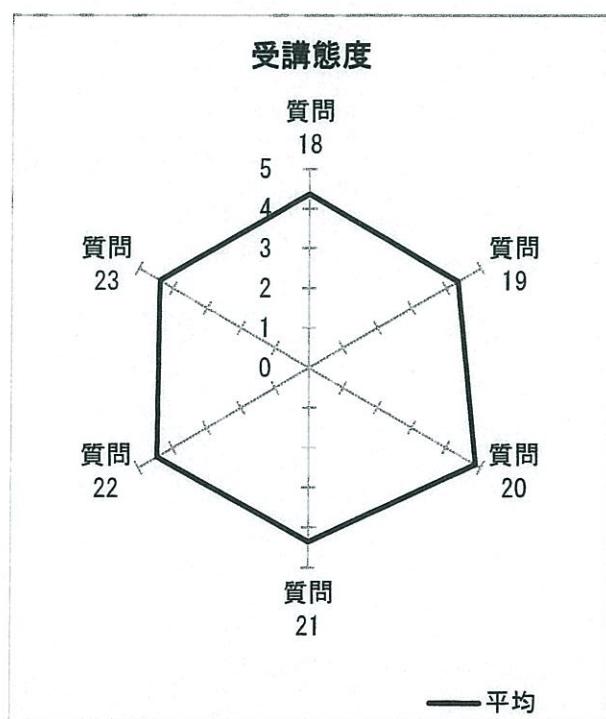
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.5

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	藤岡 奈美	母性看護方法論演習	73

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

母性看護学方法論を踏まえて、その演習を展開したが、平均得点が母性看護学方法論と比較して低い結果であった。その要因には、下位Gに位置付く学生が2名いることが大きい。後期に控えた臨地実習を踏まえて、より実践に近い演習内容を展開したが、今年度の学生は、NSTモニターの判読ができないなつたり、妊娠期の演習において個人演習を企画すると不真面目な学生も目立った。質問17で新しい知識、技術、理論等の有用性についてが、最も低い評価であったが、本演習は座学の再確認と位置づけているため、学生の自己学習等の影響も大きい。

事前に演習資料も配付し、予習できるように準備したつもりであったが、それを実践しない学生も目立った。本結果を踏まて、下位Gの学生の学力の向上を目指したいが、無記名である事で不可能があるので、改善していただきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：同じ

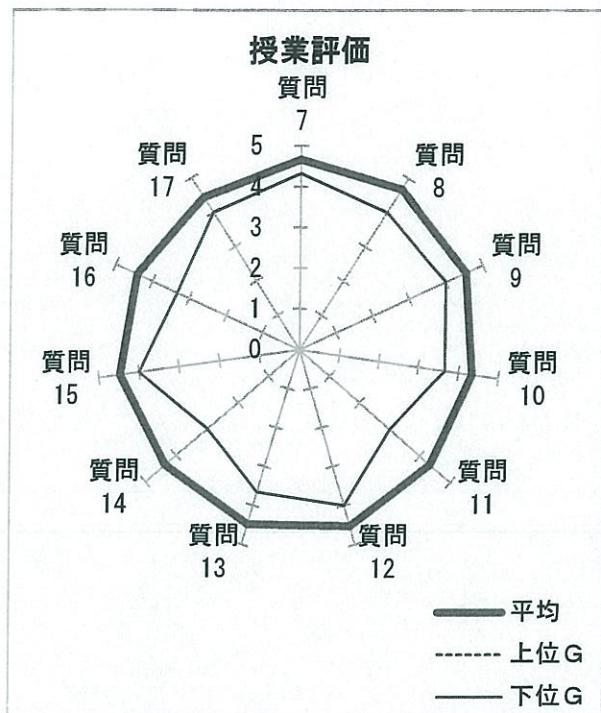
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今年度も実践に近い演習をするために、胎盤など実物を大村市内の産婦人科にご協力頂き、お借りして演習を行った。また、分娩期の学習効果を上げるために、NSTモニターのデモ機を購入して頂き、実践したが、評価が低い。実践に近い事を教えようとすると、学生が応用させて考える事が必須であるが、事前学習が不足で、できない様子であった。

次年度は、母性看護学方法論と母性看護方法論演習の講義スケジュールを再検討し、学生さらなる予習時間を確保できるように、資料等々の配付へも考慮したいと考えている。

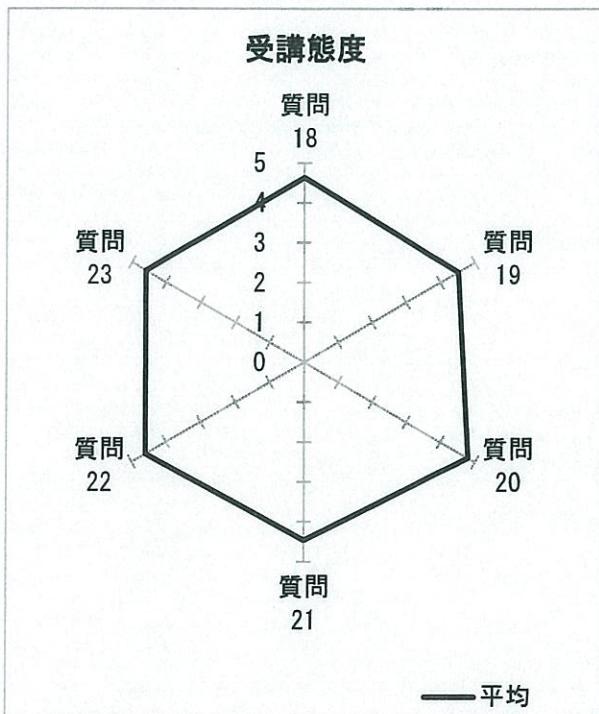
科目コード 966 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 堀川 新二 災害看護学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	4.3
質問 8	4.7	4.7	4.0
質問 9	4.5	4.6	4.0
質問 10	4.3	4.4	3.7
質問 11	4.3	4.4	3.0
質問 12	4.5	4.6	4.0
質問 13	4.5	4.5	3.7
質問 14	4.4	4.4	3.0
質問 15	4.5	4.5	4.0
質問 16	4.4	4.5	3.3
質問 17	4.4	4.5	4.0
平均	4.5	4.5	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	堀川 大曲 馬場 米村 藤岡 服部 岩瀬	災害看護学	75名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価について

質問7~17は、97.1~85.7%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。平均値は4.7~4.3である。最も評価が高かった4.7を示した項目は「質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施」「質問8：教員の時間遵守」であり、最も低い4.3を示した項目は「質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用」「質問11：教員の説明のわかり易さ」であった。授業は集中講義で、災害看護に関する総論と各論をそれぞれ講義で行い、その後、演習として事例を基に災害時要援護者に対する看護についてグループワークと発表を実施した。シラバスを基に事前に集中講義のスケジュールを示し、講義演習ごとにGIO・SBOの説明を行ったため、学生は目標を理解して演習に臨めていたと思われる。看護学の各領域の教員が担当として関わり、各論では専門的な講義が行えた。教員によって講義の展開方法が異なるため、「教材の効果的な使用」「説明のわかり易さ」に対する学生の印象に差があったかもしれない。グループワークでは各領域の教員がグループに入って助言などを行い、グループワークの後に発表では教員からコメントで助言も行った。しかし、グループワークでの学びを学生間で十分に共有できていなかつたことも考えられ、学修内容を効果的に振り返り学修した内容を知識として定着できるように介入していくことも検討が必要である。

2. 受講態度について

質問18~23は、97.2~90.0%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。平均値は4.8~4.5である。「質問19：授業内容や到達目標を理解して受講していたか」「質問21：授業の予習・復習をおこなったか」が最も低く平均値4.5であった。授業評価では、目標説明に対する評価が比較的高かったものの授業の理解が低かったことからも、目標の理解についての自信がやや低い学生が多くたと考える。グループワークの工夫として、参加が受け身にならないようにギャラリーウォークを実施したが、その目的が十分に伝わっていなかつた学生もいたかもしれない。予習復習が十分でなかつたという評価からも、到達目標や評価を明確に伝え、学生が主体的に学べるように導いていく必要がある。

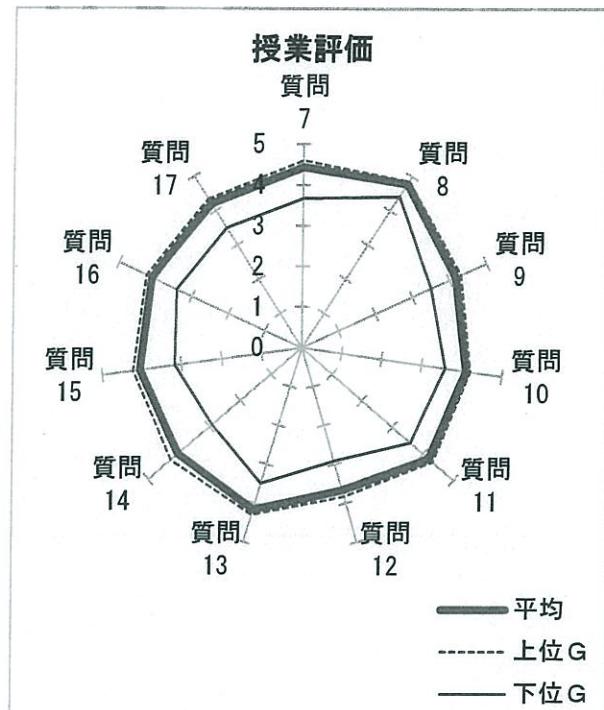
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：未定

到達目標や評価を明確に伝え、学生が主体的に学べるように導いていく必要がある。事前課題の方法を、目標とともに明確に提示し、その振り返りまで事後課題等で確認していく。

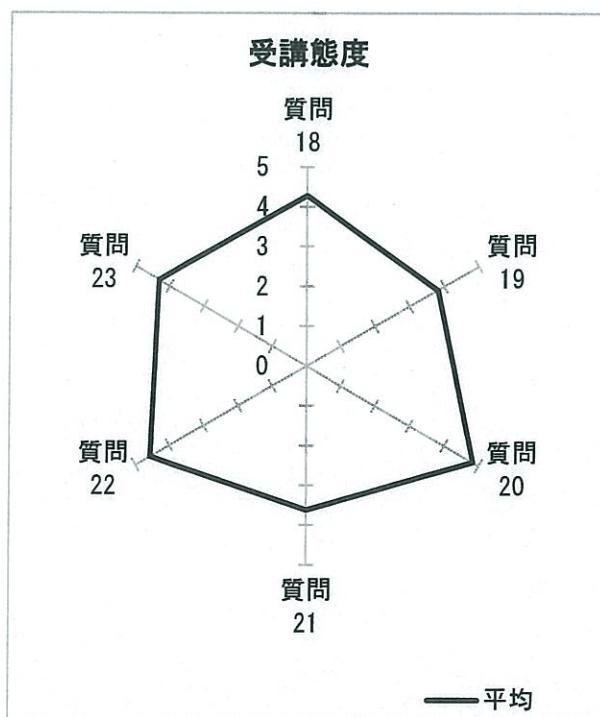
科目コード 967 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科他 永田 耕司 心理学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.4	4.6	3.7
質問8	4.8	4.9	4.4
質問9	4.2	4.3	3.5
質問10	4.1	4.2	3.6
質問11	4.2	4.3	3.6
質問12	3.7	3.8	2.9
質問13	4.2	4.3	3.5
質問14	4.0	4.3	2.9
質問15	4.1	4.2	3.2
質問16	4.1	4.3	3.4
質問17	4.2	4.3	3.5
平均	4.2	4.3	3.5

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	3.8
質問20	4.8
質問21	3.6
質問22	4.6
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	永田 耕司	心理学	71名

2018年度前期授業評アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

心理学は昨年度までは、看護1年生の必修の教養科目で、他学科は選択の教養科目として、130名程度の受講者であった。今年から、大村キャンパスでの受講となったので、今回は看護1年生のみの受講となった。これまでの心理学は医療や看護など臨床現場での事例などを踏まえた授業を行ってきている。最も高い点数が、質問7のシラバスにそった実施4.4点、及び質問8の教員の授業時間遵守で今年も4.8点（昨年4.7点）であった。それ以外も4点台と高得点であった。ただ最も3.7点と低得点であったのが、質問12「教員の授業環境に対する配慮（私語の注意）」であった、グループワークを行うので、学生同士の話し合いが授業中にも行われたためと考えられる。

心理学の学びの目標は、自己の心理の理解、及び他者の心理の理解である。心理学は、患者さんとの関わりの中で、患者さんや家族の心理状態を理解するという意味で、基本的に重要な学問である。また、例年、患者や家族の心理の把握のため、実際の患者さんやご家族に特別講演として講話をしていただいている。講話に対する学生の感じるものも多く、引き続き、患者や家族の側からの講話をやっていきたい。今年は、特別講演は、2回生で2年次に逝去した天野さんのお母様に講話をしていただいた。講話後、植樹した桜の見学を行った。志半ばで天国に旅立った天野さんという先輩がいることを知り、その志を引き継いでいきたいと多くの学生が感じていたようだった。

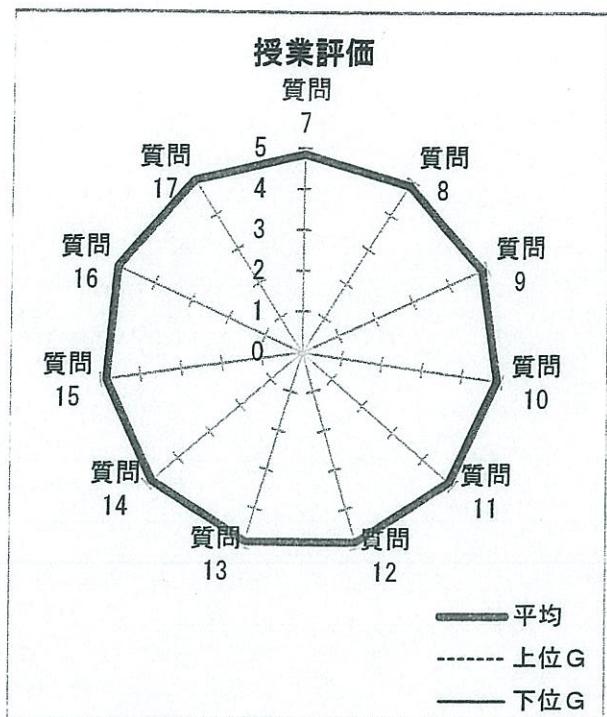
また、今回は、心理テストのコラージュ体験等を、学内カウンセラーの鶴田先生に行っていただいた。学生にとっては写真や絵の切り貼りの体験が楽しく、また自己の心理分析にもつながっていたようだ。学内カウンセラーとの交流にも繋がっていて、今後も学内カウンセラーによるコラージュ体験を継続して行っていきたい。

II. 次年度に向けての取り組み 2019年度担当科目名： 心理学

学生にとって関心の度が高い、心理テストをやっていったが、今後も継続していきたい。この分野は、様々な実践の場で患者さんや家族、クライアントの心理を把握するための学問として重要であるので、さらに現場の実践をふまえた経験からの心理学の講義をしていきたい。

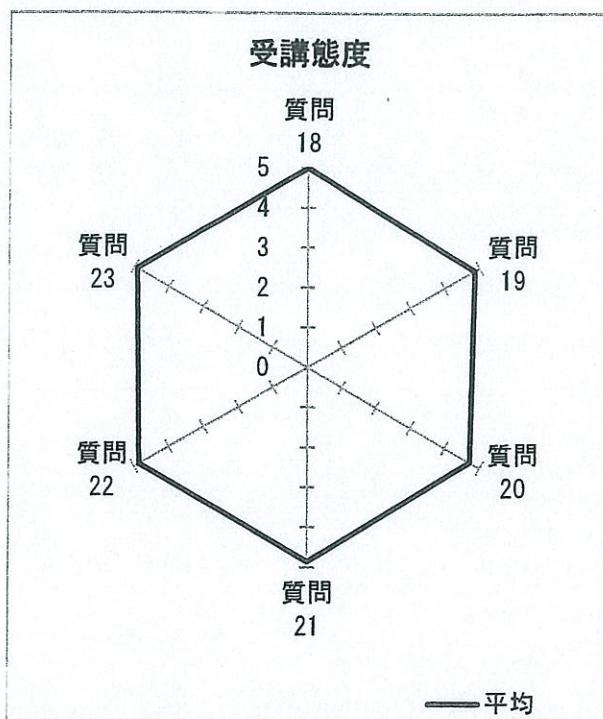
科目コード 968 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 森本・永田・六角屋 公衆衛生看護活動論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.9
質問20	4.7
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	森本 典子	公衆衛生看護活動論Ⅱ	15名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価については、11項目中9項目の平均は4.9、2項目の平均は5点満点であった。特に5点満点の項目は、質問16『授業は興味・関心・意欲を引き出したか』と質問17『新しい知識・技術・理論等の習得への有用性』であった。授業の工夫として事前課題を提示したことで授業に対するレディネスができ、興味・関心をもって授業に臨むことができたと考える。また、授業終了時には、授業内容を振り返ることができるような課題を与え、授業内容を簡潔に整理する習慣ができたと考える。学生の質問や疑問については、適宜対応し、学生の意欲を引き出すことができた。

授業の中では、領域ごとの最新情報の提示や演習を取り入れ、技術的な指導も実施し、主体的な学習を心がけた。また、産業保健師のゲストスピーカーによる講義も取り入れ、実際の現場の声を聞くことで、将来に向け、より具体的な目標や課題が明確になったと考える。

受講評価については、6項目中4項目の平均は4.9、2項目の平均がそれぞれ5点満点と4.7であった。5点満点の項目は、質問18『授業に真面目に取り組んだと思うか』であった。授業内容から興味・関心・意欲が引き出されたことで、全員が真面目に取り組むことができた。また4.7は『欠席回数』であり、病欠、公欠であった。4年生であることから、就職試験や国家試験、卒業論文、実習と過密なスケジュールの中、より効率的・効果的な授業展開が求められる。今年度の授業評価は、その成果が示されたと考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：公衆衛生看護活動論Ⅱ

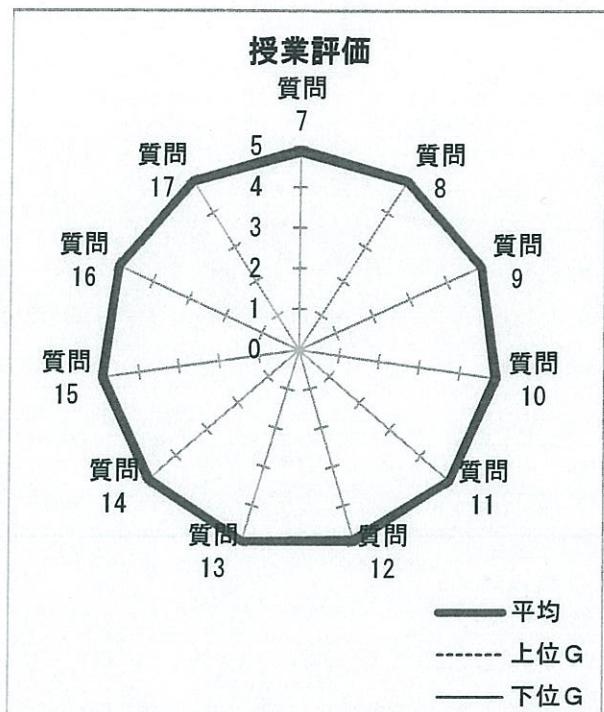
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本科目は、『学校保健』と『産業保健』で構成され、学校保健に関しては、学識経験豊かな特別専任教員が担当し、産業保健については、産業医としての経験豊富な当大学の教授、現場の2名の産業保健師、担当教員によるオムニバス方式の科目である。

新たな取り組みとしては、各講義担当者が科目全体の講義内容の流れを十分把握した上で、講義に臨めるように、シラバスの講義内容の流れを詳細に説明した資料を各講義担当者に事前に配布する必要があると考える。この取り組みから、各講義担当者の役割がより明確になり、講義内容にも反映され、科目全体の統一性が図れると考える。

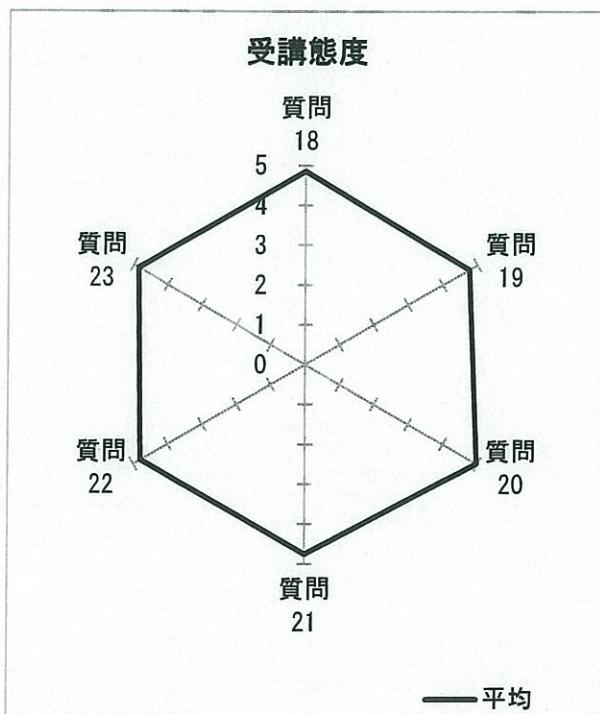
科目コード 992 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 岩瀬 貴子 キャリア支援Ⅱ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.9	4.9	5.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.9	4.9	5.0
質問16	4.9	4.9	5.0
質問17	4.9	4.9	5.0
平均	4.9	4.9	5.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	5.0
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬貴子 野口靜子	キャリア支援Ⅱ	75

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

70名の学生が回答。受講態度上位G(69名)受講態度下位G(1名)であった。質問7~17の平均は4.9であり、高評価であった。

本年度は、学部長に講義や演習にも入っていただき、臨床管理者の立場からの教授を受けたことが学生の興味関心を高めたことが考えられる。まら、勤務表を作成してみることで、4月からの就職を想像できたこと、自己の看護観を振り返ることや自身のキャリアについてのグループディスカッションや就職採用時に必要な自身の強みなどを発見することなど、身近な将来について考える機会となったことが高評価されたと考えられる。

質問21「授業の予習・復習を行ったか」は“どちらかともいえない”が4名であった。事後学修(復習)として、小課題レポートや、グループワーク課題を出していたが、予習内容については、自分で主体的に調べることが多かった。

II. 2019年度に向けての取り組み

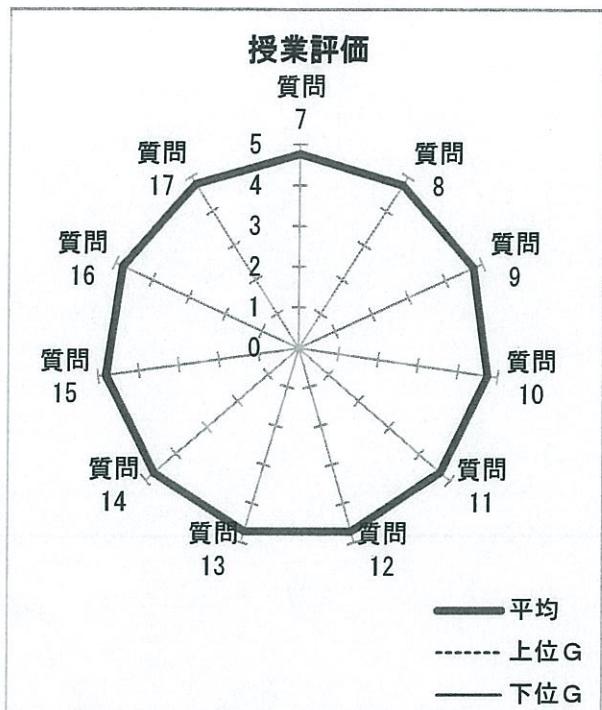
2019年度担当予定科目名：キャリア支援Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業の予習課題についてシラバスに明確に示すようにし、講義前には予習課題の振り返りができるよう授業構成を修正する予定である。

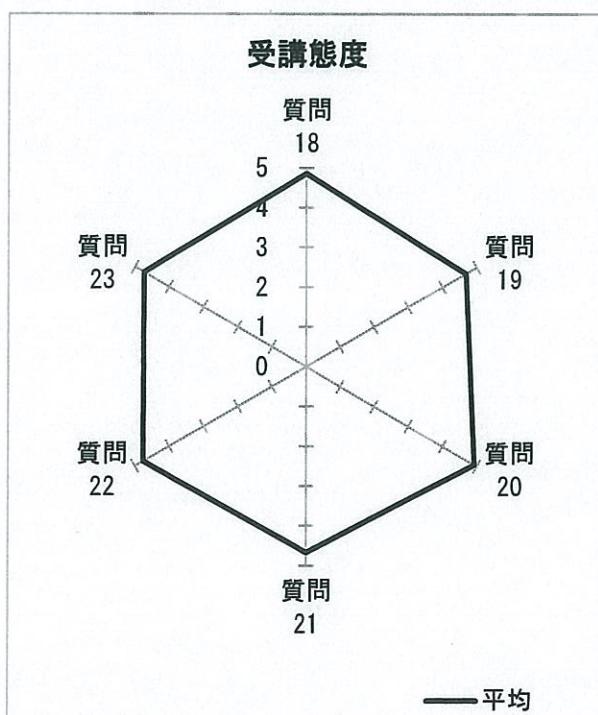
科目コード 993 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 石川 美智 ゼミナールⅢ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.7	4.7	#DIV/0!
質問12	4.7	4.7	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.7	4.7	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.7
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	石川	ゼミナールⅢ (緩和ケア)	66名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目は、4年次の選択科目であり、昨年度より新しく開講となり担当している。昨年度は、選択科目は授業評価アンケートに該当しないと勘違いし、アンケートを実施していない。本科目の履修者は、緩和ケアに興味・関心を持って選択しているという学生ばかりではない。そのため、まずは緩和ケアについて興味・関心をもってもらえるよう授業を計画している。シラバスは、本年度は8コマ中3コマ変更した。昨年度は、症状マネジメントでは身体症状マネジメントが主であったが、終末期には精神症状が多く発症するため、本年度は精神症状マネジメントの内容を追加した。また、本年度は、緩和ケアで修得する技術として、死後の処置の技術演習を実施した。そして、終末期患者の自己決定支援についての理解を深めさせるため、自己決定支援に関する国内の判例の紹介など行った。本年度は、対患者といった看護実践内容以外の多角的な側面から緩和ケアについて学ばせるよう試みた。

質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」については、ともに4.7点であった。講義内に10問の筆記試験を2回取り入れたが、間違いの多かった内容に関する説明が不十分であった。講義に関する学生の興味・関心を高めるだけでなく、学生の理解を深められるような教員の説明技術の向上、学生の授業内容の理解度を確認できるような方法を今後検討する必要がある。

4年次の7月の統合看護学実習のなかに緩和ケア実習が含まれており、本科目は7月中旬までには講義を終了させておく必要がある。4年次前期には領域実習がいくつかあり、また必修科目・保健師コースの講義もある。週に1コマずつの講義では期限内に終了することができず、空きコマで、2コマ同一日に講義を入れるとなると、2コマ続きで講義を実施することができず、1・2限目と9・10限目といったような時間割となってしまった。次年度は、学生に時間的制約のないよう時間割を組み、ソフト面の教育環境を調整していく必要がある。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：ゼミナールⅢ

本年度の評価・分析から、次年度に向けて以下の取り組みを行いたい。

- 筆記試験で間違いの多かった項目についての対応が不十分であった。くすのきポータルを活用し、間違いの多かった項目について説明を行っていく。
- 教育内容の中止がなく、また学生に時間的制約がないよう、できるだけ時間割を2コマ続きで組む。
- 他領域との教育内容の重複をさけ、教授内容を精選する。

高齢者・在宅で終末期ケアの講義が行われているが、成人・小児領域での講義は実施されていないため、成人・小児領域の緩和ケアについての内容を追加する。各発達段階での終末期の特徴、看取りの場に応じた看護の特性について教授する。